

2018 年度入試動向 まとめ

作成： 2017 年 12 月 9 日

資料

ベネッセ 2018 年度入試出願指導研究会 (11 月 9 日@ベルサール新宿)

駿台予備校 難関大学入試動向研究会 (11 月 23 日@駿台池袋校)

＊模試： 第 1 回ベネッセ駿台マーク模試、第 2 回駿台全国模試の 2 つをデータとして
利用。2 つの資料で数字が異なる場合は、原則ベネッセのものを優先し、
国公立難関大学については上位層が集まる駿台を利用している。

＊用語： 「指数」＝ 前年度の志望者数を 100 とした数値

Max Classroom.net

関 孝平

A 全体的な傾向

① 受験人口の減少

- ・現役生が増えている、既卒生の減少（既卒生は 10 万以下）
- ・2018 年度は微減
（2018 年度センター出願数中間発表： 52.8 万人、前年より 12,000 人ほど減）
- ・2019 年度からさらに続落

② 2018 年度は現行課程 3 年目。大きな入試科目の変動がなく、ある程度落ち着いた入試に。

- ・2015 年度は新カリキュラムへの移行期であり、特に「基礎科目、専門科目」と 2 つに区分けされた理科を中心に、入試科目の変更が相次いだ。
→ 私大傾向、安全志向に影響
- ・2021 年度の新テスト（大学入学希望者学力評価テスト、仮称）開始までは、大きな変動はない。

③ 文高理低の傾向が継続するも、多くの大学で文系学部の人気が高まる。

- ・2015 年度は長く見られた理高文低に落ち着きが見られ、2016 年度はついに文系が増える。理系は上げ止まりで、減少傾向が続く。
- ・2015 年度新カリキュラムによる理系科目の負担が敬遠される。
- ・就職状況の安定も文系回帰の一因。
- ・文系の人気の中心はグローバル、国際。
- ・2016 年度までは不人気傾向の経済がここ 2 年人気回復。
- ・社会系は、公立大化された長野大の影響と首都大学東京の学部改組に伴う影響で指数を上げる
- ・2016 年度以降はメディカル系統の減少。理系は情報科学、建築、土木を除き減少（特に生物、化学系統の大幅減少）。ただし、2018 年度は建築、土木系もやや上げどまり感あり。

駿台・ベネッセマーク模試 受験者数の推移（単位：万）

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
文系 国公立型	10.2	10.3	10.2	10.5	10.1	10.0	10.4	10.6	10.8
文系 私大型	18.9	19.1	19.0	19.7	19.2	19.5	20.4	21.1	21.6
理系 国公立型	12.6	13.3	13.6	14.6	14.7	14.8	14.8	14.6	14.3
理系 私大理	15.1	15.8	16.4	17.8	18.0	18.4	18.5	18.2	17.9

* 国公立型は文系 5 教科 8 科目、理系 5 教科 7 科目の志願者、私大型は文系は英国歴、理系は英数理の志願者数を使用。

④ 国公立大学での志望者は減少が続く。私立大はここ 3 年間、今までにない人気を集めていたが、頭打ちで 2018 年度は指数減。ただし、2016 年度の水準に戻っただけで「不人気傾向」

とはまだ言えない。全体としては受験生全体の人口減が影響している部分も大。

- ・ 国立大学の志望者指数 96、難関国立 10 大学も 97

4 か年の志望者指数（前年度を 100 として）

	2018 年度入試	2017 年度入試	2016 年度入試	2015 年度入試
国公立大学	96	99	102	98
私立大学	98	102	105	104

- ⑤ 国公立大学後期日程の廃止が続く。2018 年度は一橋大学、法、社会学部が廃止される。
- ・ 2016 年度は東大、2017 年度は大阪大の後期が廃止されていた。
 - ・ 2018 年度の国立募集定員は前年度比で指数 96。前期は 100 のまま。AO が 123 で増。

日程別 募集人員の推移

		2017 年度模試	2016 年度模試	2015 年度模試
国立大	前期	64,525	64,787	65,101
	後期	14,906	15,549	15,798
	AO	3,628	2,952	2,822
	推薦	11,874	11,951	11,870
公立大	前期	15,286	15,057	14,984
	中期	1,978	1,958	1,958
	後期	3,658	3,697	3,714
	AO	642	577	565
	推薦	7,387	7,175	7,129

*その他の入試形態は含まず。

日程別 志願者の推移

		2017 年度模試	2016 年度模試	2015 年度模試
国立大	前期	197,112	198,011	198,855
	後期	139,112	141,267	146,137
公立大	前期	61,810	60,181	60,015
	中期	27,637	27,333	26,278
	後期	45,221	44,852	43,261
合計		470,786	471,644	474,546

- ⑥ 国公立大学の学部新設、公立大新設、公立大学法人化の動き
- ・ 九州大・共創、横浜市立大・データサイエンス、長野県立大、諏訪東京理科大

- ⑦ 私立大学の定員充足率の厳格化と合格の絞り込み → HOT TOPICS を参照 (P5)

- ⑧ 改組について

- ・ 教育学系統は、国からの要請もあり、「ゼロ免」（教職免許を卒業要件としないカリキュラム）の廃止を中心に、2015 年度から改組が相次ぐ。

- ・2017 年度は横浜国立大学が大きく改組し、文系学部 of 募集定員減、文理融合型の新設、などが見られる。
- ・2018 年度は落ち着くも、首都大東京の教養学部が大きく改組する（年教養学部を 4 学部 に再編し、学部系統がより分かりやすくする）。

国公立・教育学系統の改組が見られる主な大学

2015 年度	東京学芸、埼玉
2016 年度	弘前、岩手、宇都宮、千葉、山梨、信州、静岡、三重、福井、和歌山、愛媛、福岡教育、佐賀、大分、宮崎
2017 年度	茨城、横浜国立、新潟、愛知教育、大阪教育、島根、熊本、鹿児島、琉球

国公立・人文学系統の改組が見られる主な大学

2017 年度	山形（人文社会、地域教育文化）、茨城（人文社会科）、三重（人文）、神戸（文）、島根（法文）
---------	---

⑨ 社会的ニーズの高い学部系統の新設

- ・数理・情報分野の強化 → ビックデータ、人工知能を扱うなどを扱う
- ・実社会への対応 → 文理融合型、課題解決型
- ・グローバル人材育成 → グローバル系

学部・学科の新設が見られる主な大学

2015 年度	青山（地球社会共生）、順天（国際教養）
2016 年度	千葉（国際教養）、学習院（国際）、近畿（国際） 東京理科（ビジネスエコノミクス）
2017 年度	神戸（国際文化）、横浜国立（都市科）、東京海洋（海洋資源環境） 山形（理学部データサイエンスコース）、新潟（創生） 滋賀（データサイエンス）、大分（社会イノベーション） 津田塾（総合政策）、北陸（国際コミュニケーション、など） 南山（国際教養）、東洋（国際）
2018 年度	横浜国立（データサイエンス） 富山（都市デザイン）、 京都外国語（国際貢献）、大阪市立（商／公共心理） 広島（情報科学部・総合科学部／国際共創学科）、九州（共創）

⑩ 英語重視の傾向（2017 年度資料のまま）

英語重視の入試変更が見られる主な大学

2016 年度	お茶の水女子大学（理）、千葉大学（園芸、教育）、帝京
2017 年度	高知（医）、宮崎（工）、宮城（看護）、山口（理）、日本（文理）、中京

⑪ 2020 年に先立ち、多面的評価の導入が見られる

- ・面接、志望理由書など

- ⑫ 引き続き 4 技能型の英語外部検定試験の利用が目を見張るレベルで活発になっている
詳しくは、[Max Classroom.net](http://MaxClassroom.net)「英語外部試験入試情報」を参照のこと

- ⑬ 国公立は B 判定を目安に出願指導（1 回受験のため）
私立は C 判定を目安に出願指導（複数回の受験が可能のため）

HOT TOPICS： 私立大学入学定員充足率の厳格化と合格者の絞り込み

入学定員充足率の基準

- ・ 以上の数値を超えた場合は、私学助成（補助金）が全額不交付
- ・ 2019 年度以降、1.0 倍を超える入学者数に応じて学生経費額を減額
- ・ 2019 年度以降、0.95～1.0 倍にした大学に私学助成を上乗せ

私立大学入学定員充足率の基準の改正

	大規模大学 (8000 人以上)	中規模大学 (4000 人以上)	小規模大学 (4000 人未満)
2015 年度（改正前）	1.20 倍以上	1.30 倍以上	1.30 倍以上
2016 年度	1.17 倍以上	1.27 倍以上	
2017 年度	1.14 倍以上	1.24 倍以上	
2018 年度	1.10 倍以上	1.20 倍以上	

影響のまとめ

- ① 定員充足率の厳格化が進み、2016 年度から合格者を軒並み絞っている（基準を超えて入学者を確保した場合は補助金がカットされるため）。今後もその傾向は続き、私大の合格は抑えられ、さらに厳しい入試になることは必至。
- ・ 一例として、早稲田は入試説明会で「基準を 1 学部でもオーバーしてしまうと 4 年間全ての学部が学則変更や新プロジェクトをできなくなるため、絶対に合格者を絞る。追加合格で対応せざるを得ない。」と公言した。
 - ・ 2016 年度は早慶上智で合格者の指数は前年度比 97、MARCH は 102 だったが、法政を抜くと軒並み減少。
 - ・ 2017 年度は私大全体の募集人員が前年度比指数 102 だったのに対し、合格者は 98。MARCHG 以上も上智大学の 104 以外は全て合格者を絞り込む。中には、前年度指数 80 台を出す大学も出て、非常に厳しい入試だったことがうかがえる。特に早稲田、青学、法政、立教で厳しい絞り込みが見られた。
 - ・ 第一段階の合格を抑え、繰り上げ合格で対応する大学も多い。
- ② 対応策として、2017 年度は MARCH レベルの大学でも、生徒数確保のため、募集定員を引き上げる策に出たが、2017 年 9 月 29 日に「東京 23 区内の定員増は認めない」という閣議

決定が出された。ただし、定員増のための施設整備を今年 6 月末までに理事会で決めている場合などは、例外として 18 年度の定員増を認める。

- ・2018 年度は明治大学の 1030 人増が目玉（特別措置による許可）。

2016 年度、2017 年度入試で見られた合格者数の変化（一般入試＋センター利用合計）

	2017 年度入試		2016 年度入試	
	合格者数	前年度比指数	合格者数	前年度比指数
早稲田大	15,927	89	17,976	98
慶應義塾大	8,978	97	9,252	97
上智大	6,226	104	5,988	92
早慶上智合計	31,131	94	33,216	97
明治大	22,854	95	24,144	97
青山学院大	8,064	85	9,504	94
立教大	11,260	88	12,838	97
中央大	15,903	96	16,484	99
法政大	21,181	91	23,192	119
MARCH 合計	79,262	92	86,162	102

2016 年度、2017 年度入試で見られた倍率の変化（一般入試＋センター利用合計）

	2017 年度入試		2016 年度入試	
	倍率	対前年差	倍率	対前年差
早稲田大	7.2	+ 1.2	6.0	+ 0.3
慶應義塾大	5.0	+ 0.2	4.8	+ 0.3
上智大	4.8	+ 0.1	4.7	- 0.2
早慶上智合計	6.1	+ 0.6	5.4	+ 0.2
明治大	5.0	+ 0.5	4.5	+ 0.3
青山学院大	7.6	+ 1.3	6.3	+ 0.4
立教大	5.6	+ 0.8	4.7	- 0.3
中央大	4.7	+ 0.1	4.6	+ 0.4
法政大	5.6	+ 1.2	4.4	- 0.4
MARCH 合計	5.4	+ 0.7	4.7	0.0

2017 年度、2018 年度の入学定員増加の主な大学

2018 年度		2017 年度	
明治大	+ 1030	東京理科大	+ 324
成蹊大	+ 40	青山学院大	+ 318
東京電機大	+ 30	立教大	+ 454
日本大	+ 472	中央大	+ 454
日本女子大	+ 137	日本大	+ 109
武蔵野大	+ 385	東京大	+ 569
京都産業大	+ 105	明治学院大	+ 320
同志社大	+ 326		
立命館大	+ 195		

- ③ 受験生の弱気志向、安定志向が見られる。
- ・ 2015 年度入試は新カリキュラム移行期であり安全志向が目立った。
 - ・ 2016 年度は安定志向に落ち着きが見られ、チャレンジ志向が戻る。文系でチャレンジ志向と安全志向の二極化が見られた。
 - ・ 2017 年度は上位層が安全志向に走る傾向にあり、難関大学の志願者減が見られた。
 - ・ 2018 年度は、前年度の合格者の絞り込みの影響で、より一層安全志向に。
- ④ 上記③の結果、最上位を除いて 1 ランク難易度の低い大学に受験生が流れる（逆に言えば、各大学 1 ランク上の層が流れてきていて、厳しい受験になるということ）。
- ・ 私大は全体の志望
 - ・ 者指数以上に上位者の指数の増加が目立つ。上位者の指数が 150 を超えている大学・学部も珍しくない。志望者指数が 100 を割っていても、上位者指数は 100 を超えているものも多い。

B 学部系統別動向

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試の志望者指数 推移

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)		2015 年度受験生 (2014 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
全体	96	98	99	102	102	105	98	104
人文科学	102	99	96	102	107	105	96	102
語学	97	98	101	100	108	107	103	105
法学	103	99	105	105	113	110	101	108
経済・経営・商学	102	99	104	108	109	110	97	104
社会学	105	102	92	106	128	101	101	101
国際関係学	102	103	120	106	113	113	99	108
教員養成・教育学	89	94	91	97	98	102	97	104
生活科学	104	93	95	95	102	100	95	103
芸術学	91	97	104	103	108	101	115	103
総合科学	99	101	107	106	101	110	99	102
保健衛生学	96	96	100	103	101	104	98	106
医学	93	95	95	96	99	107	100	100
歯学	98	103	94	94	96	96	101	114
薬学	97	94	98	94	97	98	92	99
理学	96	93	96	95	97	98	93	100
工学	94	99	101	99	100	102	101	105
農・水産学	87	91	94	101	101	101	99	104
体育	92		100		98	98	106	109

*ベネッセ資料： 総志望者の集計

① 文系が継続して全体的に昨年水準維持～上昇する。

- ・中でも国際、経済が人気
- ・教育は教育学部の改組、ゼロ免過程廃止もあり、数年にわたって大きく下落

理系は続落。

- ・理、工、農・水産系の下落が目立つ
- ・メディカル系も数年にわたって大きく減少

② 人文科学、語学は前年並みの志望者指数

- ・語学は、国公立で人気が安定し、志望者の振れ幅が小さい。私立では 2015 年度に志望者数を減らしたが、2016 年度回復基調で、2017 年度は横ばい。2018 年度は微減。

③ 国際関係、グローバル系の人気上昇

- ・2010 年度以降、文系人気の中心を担う。
- ・ここ数年、募集人員増も見られる。2014 年度から 2016 年度の 2 年間で国公立では約 130%、私立でも 115%程度の定員増加。近年、国際系、地域貢献志向型の学部新設も

続き、志願者増に拍車がかかる。

- ・2018 年度は人気落ち着き、大きな上昇はないが、全体指数が 98 であることを考えると、人気維持と言える。

④ 法学系統は昨年並み

- ・2014 年度まで不人気が続いていたが、その後、首都圏を中心に人気回復。
- ・＜駿台資料＞学科系統でみると、法は国公立 110、私立 105 と志望者増が顕著だったが、今年は国公立 100、私立 98。一方、政治は国公立 96 と下落基調も私立は 102 と微増。

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
法学	100	98	105	105
政治学	96	102	107	107

* 駿台資料： 第一志望者の集計

⑤ 経済系統の人気が続伸

- ・2015 年度までは経営、商と言った実学以外は不調だった経済が、2016 年度から上昇傾向。2018 年度は国公立でその人気回復を継続している。
- ・＜駿台資料＞経済の中でもまさに「経済学」が志望者を増やす。国公立の指数 106 で続伸

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
経済学	106	99	106	107
経営・商学	95	98	111	109
経営情報学	102	104	77	97

* 駿台資料： 第一志望者の集計

⑥ 社会学は隔年変動もあり上昇。

- ・国公立の社会科学系は 2016 年度は指数 128、2017 年度はその反動で 92。その逆反動もあり 2018 年度は 105。
- ・私立大では、2016 年度から 101、106、102 と緩やかながら上昇傾向を継続。

⑦ 教育系統の志望者が引き続き大きく減

- ・国公立は昨年度の 91 に続き、89 と低調。私立も 2017 年度から下落に転じ、2 年連続

の下落し、今年度の指数は 94。

- ・ 2016 年度、2017 年度からゼロ免過程（非教員養成系）廃止や学部・学科の改組が相次ぎ、募集人数や入試の変更も多いことから特に国公立は敬遠されている。
- ・ 2017 年度の国公立大のゼロ免過程の募集人員は前年度の 65%。これが志望者減に直撃していた。2018 年度はダメージが残り、志望減が止まらず。
- ・ 私立大では、2010 年度から 2015 年度の間で 160%もの人員増が行われており、募集人員は増加も志望者は減。

⑧ 生活科学は国公立で回復。私立は 2 年連続志望者減。

- ・ 食物、栄養学、児童学などは人気が安定する学部。

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
生活科学	96	103	125	92	114	102
食物・栄養	100	92	94	97	100	100
被服・服飾	---	93	---	102	---	101
児童学	130	93	89	92	104	99
住居学	96	91	97	95	117	112

*ベネッセ資料： 総志望者の集計

⑨ 保健衛生系は国公立、私立共に下落

- ・ 2015 年度で人気上昇に落ち着き、2017 年度まではメディカル系が低調な中で維持をしていたが、今年度ついに下落に転じる。
- ・ 2017 年度は新設大学（岩手保健医療大学、福岡看護大学）の影響で私大志望者が増加していた。今年度はその反動もあり。

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
看護	98	100	100	104	101	106
医療技術	109	98	92	100	125	97
保健	171	97	91	94	115	117
体育・健康科学	94	94	93	105	114	100
理学療法	92	85	96	95	100	106
作業療法	100	102	92	93	101	99
放射線技術	92	95	99	109	98	100
検査技術	88	93	109	112	95	115

*ベネッセ資料： 総志望者の集計

⑩ メディカル系統の人気の数年にわたり大きく下降。

- ・ 医は、医師不足の対応として、2008 年度より募集人員が増やし、2007 年度の 7800 人から 9400 人を超えるまでになった（2019 年度まで継続）。今年度は実質は定員減をする大学があり、相殺して昨年度とほぼ同じ募集定員総数。
- ・ 一方で、志望者数は減。医学部医学科は 2013 年模試（2014 年度受験）の志望者数を 100 とした場合、2017 年模試（2018 年度入試）の国公立は 88 まで下げる。
- ・ 私立は 2015 年度に学費の値下げを行い、志望者が一気に増え、2013 年模試（2014 年度受験）ベースで 107 まで増えたが、その後下降し、2017 年模試（2018 年度受験）は 98。
- ・ 薬は、2014 年度まで人気傾向の薬学は、2015 年度から下降に転じ、4 年連続の下落。
- ・ 歯は、一昨年は前の年の反動で上昇。しかし、その後は減少傾向。今年は私立で 103 と上昇するも国公立は続落（98）。
- ・ 国公立大学志望者を地区別に見ても、全ての地域 2 年間軒並み減。今年度は特に大学が多い関東・甲信越での下落が一層目立ち、象徴的である。
- ・ そもそも医学部は難しく入りにくく、地方大も地方枠があるため外からの入学はハードルが高くなってしまう。また、景気回復や就職の安定に伴い、医学部に本当に入りたい層が残り、その後は医学部以外を目指す上位層が増えた。

2013 年模試をベースにした医学部医学科の志望者指数の推移

	2017 年模試	2016 年模試	2015 年模試	2014 年模試	2013 年模試
国公立	88	94	99	100	100
私立大	98	103	107	100	100

国公立大学 地区別の医学部医学科の志望者指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	前期	後期	前期	後期
北海道・東北	98	96	99	99
関東・甲信越	90	86	98	88
東海・北陸	95	87	102	97
近畿	98	89	95	69
中国・四国	95	94	92	93
九州・沖縄	97	98	93	91

⑪ 理学系統は志望者減が継続。

- ・数学は安定、情報科学は人気。生物、化学系が大きく下落を続ける。

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立
数学	109	101	91	100
物理学	98	99	94	94
化学	96	91	88	88
生物学	88	89	98	90
地球科学	87	94	92	94
情報科学	127	94	112	100

* 駿台資料： 第一志望者の集計

⑫ 工学系統は情報工学、建築系統を除いて、志望者減。

- ・震災復興、オリンピックの影響による建築人気は、特に私立で落ち着いた感がある。
- ・生物、化学系の不人気を受けて、応用化学、生物工学など関連分野も下落傾向が続く。

学科系統別の指数

	2018 年度受験生 (2017 年模試)		2017 年度受験生 (2016 年模試)		2016 年度受験生 (2015 年模試)	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
機械工学	90	95	101	98	99	101
電気・電子・通信工学	98	99	97	97	94	96
情報工学	104	117	104	105	100	105
建築・土木・環境工学	97	97	107	108	107	109
応用工学	89	93	97	94	98	102
生物工学	93	89	96	88	104	98
その他工学	90	101	101	96	102	100

* ベネッセ資料： 総志望者の集計

⑬ 農・水産が大きく下落。国公立は 2017 年度に続く、大幅下落。

- ・私大が少ないため、主に国公立の受験となっていた分野で、これまでは良くも悪くも安定していたが、今年度は大きな志望者減が見受けられる。
- ・北海道大、千葉大・園芸、名古屋大、九州大などで大幅減少が見られる。

C 大学別動向 国公立 (特別表記がない場合は前期試験)

<概況>

難関国公立 10 大学

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 難関国立 10 大学の志望動向 推移

	2018 年度受験生 (2017 年模試)				2017 年度受験生 (2016 年模試)				2016 年度受験生 (2015 年模試)			
	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系
北海道大	103	97	104	93	105	93	116	94	107	103	108	105
東北大	110	102	111	93	105	97	116	106	111	105	132	117
東京大	96	94	---	---	101	96	---	---	115	106	---	---
東工大	---	109	---	92	---	104	---	90	---	103	---	220
一橋大	104	---	58	---	103	---	106	---	108	---	160	---
名古屋大	97	97	---	57	103	98	---	114	106	102	---	152
京都大	101	97	89	---	105	98	117	---	101	101	---	---
大阪大	115	112	---	---	106	98	---	---	107	101	100	100
神戸大	105	96	97	97	101	98	147	---	98	94	95	103
九州大	106	94	104	93	107	102	111	101	108	100	101	91

* 駿台資料： 第 1 志望者の集計

- ① 国公立全体として減少傾向。10 大学全体の指数は 97。
- ② 東大、京大の志望者が減り、次層の一橋、東工大に流れる傾向。
 - ・マーク模試の指数： 東大 前期文系 96、理系 94
京大 前期文系 101、理系 97
 - ・ただし、上位者の集まる第 2 回駿台全国模試（8 割程度の受験者が難関国立 10 大学を志願）では指数を伸ばす大学が多く、実質的に上位者は残っている。
 - ・駿台全国模試の指数： 東大 前期文系 108、理系 104
京大 前期文系 113、理系 102
- ③ 文系は維持～続伸。
 - ＜駿台資料： マーク模試の第一志望者集計＞
 - ・今年度は東京大（96）、名古屋大（97）が 100 を割り切る。
 - ・ただし、全体の指数は減っていても、上位者は残り、増えている。
 - ・駿台全国模試では東大 前期文系 108、名古屋大 前期文系 112
- ④ 理系は全体的に下がり調子。
 - ＜駿台資料： マーク模試の第一志望者集計＞
 - ・ただし、東工大（109）、東北大（102）、大阪大（112）といった東大、京大に続く大学で志願者が増える。
 - ・駿台全国模試では、名古屋大の理系が前期 57、後期 68 と大幅に下がる。

⑤ 一橋大学

＜駿台資料： マーク模試の第一志望者集計＞

- ・後期は指数 58 の大幅減。法、社会の 2 学部が後期を廃止する影響。
- ・後期試験は経済のみとなる（経済も募集人員を 15 減らし、推薦入試に回す）。
- ・募集人員の前年度指数は 75 であり、定員減以上に志願者が大きく減っている動向。
- ・北海道大、東北大、九州大に流れている様子（駿台全国模試ではその傾向がより顕著に出ている）

昨年度までの動向のまとめ

- ⑥ 2017 年度は大阪大後期廃止の影響もあり、文系前期は全ての大学 100 を超えていたが、
- ⑦ 東大は、2016 年度、後期廃止の影響と強気志向により、文系が大幅上昇したが、2017 年度は前年並だった。一方、東大の層が一橋、東工大に流れていた。
- ⑧ 2016 年度、一橋大、東工大の後期は、東大後期廃止の影響で、大幅 UP した。2017 年度もその傾向が継続され前年度と大きく変わらず（東工大はやや揺り戻しがあるが）。
- ⑨ 2017 年度、名古屋大は全体では前年並みだったが、改組された情報学部は 200 と大幅増加。
- ⑩ 2017 年度、大阪大は後期廃止。前期日程の志望者増&西日本の周辺大学に影響した。
- ⑪ 2016 年度志望者を減らしていた神戸大は 2017 年度前期は前年並みも、後期は大阪大後期廃止の影響で、文系 147（前年度 95）と大幅増。京大前期を第一志望者とする後期の併願校として、大阪大から神戸大に移る傾向も見られた。一方、2017 年改組の国際人間は、募集人員減もあり、志望者も減っていた。

関東主要国公立

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 関東主要国公立大学の志望動向 推移

	2018 年度受験生 (2017 年模試)				2017 年度受験生 (2016 年模試)				2016 年度受験生 (2015 年模試)			
	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系	前期 文系	前期 理系	後期 文系	後期 理系
筑波大	99	100	100	94	97	101	100	104	110	107	107	105
埼玉大	102	93	109	99	105	105	110	114	104	98	63	86
千葉大	94	88	100	90	100	89	88	97	119	100	109	95
お茶の水	116	99	99	93	94	105	116	122				
電通大	---	98	---	96	---	99	---	114	---	89	---	163
東京外大	94	---	100	---	97	---	96	---	104	---	98	---
東京海洋	---	97	---	89	---	102	---	96				
東京学芸	91	102	85	93	104	95	107	96	98	101	90	110
東京農工	---	95	---	96	---	96	---	97	---	92	---	93
横浜国大	102	106	101	93	93	104	91	101	102	96	102	99
首都大	110	98	106	99	112	109	103	103	106	107	102	95
横浜市大	116	103	新設	新設	106	93	---	---	111	95		

*駿台資料： 第一志望者の集計

<大学別>

表について

- ・過去 3 年間のベネッセ・駿台マーク模試の志願動向（総志望者集計）をまとめている。
- ・学部や学類の全方式を合算した数値である。個別の方式や学科、専攻によって傾向が異なることもある。
- ・改組や新規設置については、前身の学部がある場合はそのデータと比較している。
- ・全体 = 志望者全体の指数 → 前年と比較して志望者がどれぐらいいるか
 上位 = A、B 判定の上位層の指数 → 前年と比較して上位層がどれぐらいいるのか
 B 判定 = 模試における B 判定ラインの偏差値

東京大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文科一類	前期	96	128	75	94	98	75	118	106	75
文科二類	前期	98	169	74	99	83	74	120	129	74
文科三類	前期	95	121	73	99	94	74	119	132	74
理科一類	前期	94	137	71	97	141	72	106	129	72
理科二類	前期	90	133	71	94	112	72	121	174	72
理科三類	前期	88	185	75	101	63	75	106	72	75

① 大学全体の志望者指数は 93。マーク模試ではすべての学部が志望者を下げる。ただし、上位者指数は高く、最上位層は残っている。

② 文 I :

- ・マーク模試では指数 98 でやや下げるが、東大入試模試では 105、駿台全国模試では 118 と上位層の動向は好調。2017 年度は不人気傾向＋弱気受験で志望者減だったが、今年は回復基調。
- ・駿台模試では一番志願者指数を上げ、難化傾向。
- ・<駿台全国模試>A ライン以上の層が増え、C ライン前後も増え、ボーダー付近の志望者が増える。
- ・2016 年度後期廃止により一橋を筆頭に京大や九州大、大阪大との併願増加が見られている。
- ・後期併願：一橋の法・社会の後期廃止によって、一橋・経済、神戸大、千葉大との併願関係が強くなるが、それ以上に私立大との併願を考える生徒が多い。
- ・私大併願：早慶の法学部、政治系。

③ 文 II :

- ・駿台全国模試では指数 101。
- ・＜駿台全国模試＞C ライン以上がやや増えるもレベルは前年度と大きく変わらず。
- ・2017 年度は志望者やや増（指数 103）、上位者が増え、難化。（偏差値差+1.0）
- ・後期併願： 一橋・経済が圧倒的。東北大、横浜国立大も併願候補に。
- ・私大併願： 慶應・商、経済、早稲田・政経、商

④ 文Ⅲ：

- ・駿台全国模試では指数 104、A ライン以上の上位層がやや増え、やや難化～前年並み。
ただし指数の増加分は C ライン以下に集中し、大きな変化はないと予測される。
- ・センターの結果を受けて、文Ⅰ、文Ⅱから受験生が流れてくる。
- ・後期併願： 九州大、東北大、北海道大、横浜国立など。
2017 年度の東大文Ⅲ志望者の一橋・法・後期の合格率は 0%。
- ・私大併願： 早稲田・文、法（セ）、慶応・商、早稲田・文化構想。慶應・文を早稲田・文化構想が追い越す。

⑤ 理Ⅰ：

- ・指数： マーク模試では 95、駿台全国模試では 108。
- ・＜駿台全国模試＞B ライン以上は前年度と変わらない。B～C ラインの層が増え、当落ライン上は多少難化の可能性もある。
- ・2017 年度は志願者大幅減（指数 89）＋弱気受験、上位層も減少で易化
- ・後期併願： 東北大・理、九州大・工、東工大 7 類など
- ・私大併願： 慶應・理工、早稲田・基幹理工、先進理工

⑥ 理Ⅱ：

- ・指数： マーク模試では 90 と大きく下落、駿台全国模試では 99。
- ・＜駿台全国模試＞B～D ライン層が増え、当落ラインが厳しくなると予想。昨年の反動あり。
- ・2017 年度は上位層も減少で易化（偏差値差－0.5）。特に B～C ラインの層が大きく減少。
- ・センターの結果を受けて、理Ⅰ、理Ⅲから流れてくることが予想されるが、今年度は理Ⅰの C ライン以下層からの流入が考えられるか。
- ・後期併願： 2017 年度の併願トップは山梨大・医。北大・農、東北大・農と続く。
- ・私大併願： 慶應・理工、早稲田・先進理工。2017 年度併願 4 位に慶應・経済も。

⑦ 理Ⅲ：

- ・指数： マーク模試では 88。駿台全国模試では 95、志望者は 2 年連続減。
- ・B ライン以上は昨年度と大きく変わらず → 難易度に大きな影響なし
- ・動向に関係なく超ハイレベル。
- ・2018 年度より面接を導入（多角的総合的な選抜）
- ・後期併願： 千葉大、東京医科歯科大が主。2017 年度は大阪大・医の後期廃止の影響で特に千葉大に流入し併願トップに。
- ・私大併願： 慶應、東京慈恵会医大、防衛医科大、順天堂大

⑧ 文化類、理Ⅰ、理Ⅱは記述偏差値 75 が合格の目安。理Ⅲは 80。

⑨ 推薦入試（100 人募集）

- ・ 2016 年度結果 77 名合格／173 志願者
- ・ 2017 年度結果 71 名合格／173 志願者
- ・ 2018 年度は 179 名志願で、2017 年度と同程度の合格者と予想される。
→ 合格の埋まらなかった 23 名は前期の枠に回った

京都大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	前期	107	102	71	99	106	72	101	85	71
法	前期	90	117	73	108	103	73	96	106	73
経済	前期	102	108	72	109	102	72	113	154	72
教育	前期	89	96	70	100	136	71	106	107	70
総合人間	前期	95	62	69	98	91	71	114	128	71
理	前期	87	111	69	99	119	69	99	94	69
工	前期	93	127	66	101	128	66	105	137	65
医	前期	90	119	73	93	88	74	105	160	74
薬	前期	85	119	69	99	101	69	103	124	69
農	前期	90	118	66	91	95	66	96	110	65

① 大学全体： 前期の志望者指数は 93 と減少。上位層は増えている学部が多い。

② 文：

- ・ マーク模試指数 107、駿台全国模試では 132 と志願者増、A～C の全ての層で上昇し、難化必至。
- ・ 2016 年度の駿台全国模試では 87 と減少し、その反動も要因。

③ 法：

- ・ マーク模試指数 91、駿台全国模試 97 と志望者減
- ・ <駿台全国模試>A～C ラインで減る。京大のため易化とは言い切れないが、ややチャンスが広がる可能性も。
- ・ 後期、特色入試は 2017 年度に第 1 段階選抜基準が変更され、駿台全国模試で 134 の指数を出した。今年は 98 で前年の水準を維持。平均偏差値は+3.3 ポイント上昇。
- ・ 後期は、昨年度、東大後期廃止の影響を受け、志願者が増えている。前期東大との併願が増える。

④ 経済：

- ・ 人気。文系は前年並み、理系は難化。
- ・ <駿台全国模試>経済・文系は昨年 108 からさらに伸ばし 122。ただし C ライン以上

はほぼ変化なし。

- ・最近人気の経済・理系は昨年に続き大幅続伸。2017 年度は 130、今年度も 125。偏差値層も +2.3 と上昇し、倍率も 5 倍台で、文系の 3 倍台を超える。

⑤ 教育：

- ・文系は志願者前年並みも、B ライン以上は増え難化予想。
- ・理系は駿台全国模試の指数で 76 と大きく志願者を落とす。
- ・2016 年度は指数 129 と大幅に志望者を増やしたが、2017 年度は文系、理系共に指数 95 と減。ただし平均偏差値 +2.3 で、上位層は変わらず。

⑥ 総合人間：

- ・＜駿台全国模試＞文系は、志願者前年並みも、B ライン以上が大きく減り、易化。
- ・理系は指数 114 と志願者増。C ライン以上の全ての層で増え、難化必至。
- ・2017 年度は文系理系ともに志望者が減っていた。

⑦ 工：

- ・＜駿台全国模試＞2017 年度は志望者減、易化したが、2018 年度の C ライン以上の分布は 2016 年度のものにほぼ一致。
- ・建築は指数 100 だが、A～C ラインの層が大きく上昇し、難化。
- ・情報は指数 112 で、A～C ラインの層が大きく上昇し、難化。2017 年度入試の合格し最低点では、長らく 1 位だった物理工を抜きトップになる。
- ・2016 年度から学部一括募集。第 2 志望まで書ける。
- ・学科の合格最低点は工業化学か地球工が一番低い（ここ 3 年は 560 点台）。学科を選ばずどうしても入りたい層はこの 2 つを書く。

⑧ 農：

- ・駿台全国模試では、全体は前年度と全く同じ分布。
- ・駿台全国模試では、応用生命科学は 2017 年度は指数 71、偏差値差 -1.8 と上位層が大幅に減っていたが、今年度は指数 128 と回復。
- ・2017 年度は指数 120、偏差値差 +4.1 と人気だった地域環境工は前年水準を維持。
- ・資源生物化学は指数 96 で、上位層も減る。
- ・その他は軒並み減少。応用生命科学は 71
- ・食品生物科学は 88 と指数減らすも C ライン以上は変わらず。
- ・2016 年度から学部一括募集。第 6 志望まで書ける。

東京工業大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
第 1 類	前期	96	105	66	96	104	67	97	77	97
第 2 類	前期	118	127	65	87	120	65	101	92	95
第 3 類	前期	104	107	66	97	111	67	104	85	66
第 4 類	前期	101	155	68	98	115	68	102	89	67
第 5 類	前期	111	135	67	111	129	67	107	93	66
第 6 類	前期	100	135	67	109	118	66	115	132	66
第 7 類	前期	94	136	65	108	111	64	111	121	64
	後期	90	52	73	87	57	74	177	1017	76

- ① 2016 年度は学部学科改組、募集定員の変更、推薦&AO の導入を行った
 - ・ 3 学部 23 学科 → 6 学院 17 系
 - ・ 入試時の募集単位は第 1 類～第 7 類のまま変更なし
 - ・ 第 1 類は推薦入試（10 人、現役のみ）
第 2 類～第 7 類は AO 入試（10～20 人、現役および既卒生）
いずれもセンター試験で 85% を取ることが目安
- ② 全体としては志望者続伸。東大の弱気層が流れていると推察される。上位層が厚い。
 - ・ 指数： マーク模試 109、駿台全国模試 104
- ③ 近年人気のなかった第 1 類～第 3 類も、第 4～6 類とともに志望者増。7 類は昨年度の反動もあり、指数 80 と大きく減らす。
- ④ 第 1 類： 志望者減。マーク指数 96、駿台全国模試では 98)、レベルは前年並み。
- ⑤ 第 2 類： 志望者は大きく増。マーク指数 118、駿台全国模試では 123。A～C の層で増える。難化必至。
- ⑥ 第 3 類： 志望者増。マーク指数 104、駿台全国模試では 112。B～C ラインで増えている。
- ⑦ 第 4 類： マーク指数 101、駿台全国模試では 93 とやや低調。前年並みと予測。
- ⑧ 第 5 類： 人気の情報。志望者指数 3 年連続大幅増加（マーク指数 111、駿台全国模試では 116。あらゆる偏差値帯で大幅アップ。難化は不可避。2017 年度入試の実質倍率も 5.4 倍と高かった。
- ⑨ 第 6 類： マーク指数 100、駿台全国模試では 110。C ライン以上は前年並みか。
 - ・ 2016 年度は志願者も大きく上昇し、レベルも上がった。
 - ・ 震災、オリンピックの波で、ここ数年人気、難化傾向だが、今年度で落ち着いたか。
- ⑩ 第 7 類： マーク指数は前期 94、駿台模試では 80。A ライン以下が大きく減り、易化必至。
- ⑪ 英語の試験が難しくなりつつある
 - ・ グローバル人材育成のため、理数系だけでなく英語も重視するバランス型入試
 - ・ グローバル企業就職率 国内 NO.1 22%

一橋大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
法	前期	111	130	71	100	86	71	112	110	72
	後期	廃止			102	102	75	132	142	76
経済	前期	103	111	69	105	94	70	105	102	70
	後期	105	134	74	106	111	74	145	152	75
商	前期	103	101	69	105	111	70	107	89	70
社会	前期	98	66	68	102	97	69	106	116	70
	後期	廃止			114	124	73	136	246	73

- ① 2018 年度は前期でやや志望者増。東大の層がやや流れてきている感あり。上位者指数が高い。
 - ・ 2016 年度の東大後期廃止の影響で、受験生が流入した。2017 年度は、全体的には志望者がやや上がるも、難易度に大きな変化なかった。
- ② 2018 年度は法、社会学部で後期日程を廃止する。
 - ・ 後期が残るのは経済学部のみ（定員は 215 名から 200 名へ減）。
 - ・ 後期廃止の影響で志望者指数が定員の指数減以上に減る（P14 参照）。
 - ・ 後期の併願先「なし」が増加、その他、千葉大や横浜国立、神戸大との併願が増える。
- ③ 2018 年度より法、経済、社会で推薦入試を新規実施（定員は各 10～15 名）
- ④ マーク模試では法、経済、社会学部の C ライン以上は全て前年度と同じ分布。一方、駿台全国マーク模試で難化傾向がみられる。以下はリスクヘッジを取って上位者の集まる駿台全国模試で分析した。
- ⑤ 法： 法学の人気回復で志願者は上昇。難化。
 - ・ 指数： マーク模試では 105、駿台全国模試では 119。
 - ・ 全ての層で増加が見られている。
 - ・ 後期併願： 千葉大が上昇。その他、神戸大、九州大、東京外国語、横浜国立大
 - ・ 私大併願： 中央・法、早稲田・法、明治・法
- ⑥ 経済： 志願者大幅増、難化必至
 - ・ 指数： マーク模試では 110、駿台全国模試では 132。
 - ・ 2017 年度の駿台全国模試では指数 82 と減少していた。
 - ・ 後期併願： 横浜国立、東北大、千葉大
- ⑦ 商： 志願者続伸、難化必至
 - ・ 指数： マーク模試では 105、駿台全国模試では 118。
 - ・ C ライン以上で大きく増加。
 - ・ 後期併願： 横浜国立が増える、千葉大も微増、その他東北大、北大、九州大
 - ・ 私大併願： 慶應・経済、商、早稲田・商、明治・政治経済
- ⑧ 社会： 志願者は前年並み～減。易化。

- ・ 指数： マーク模試では 99、駿台全国模試では 92。
- ・ マーク模試では A ライン以下が大幅に下落し、易化が見られるが、駿台全国模試では B ライン、A ラインは増加、B ライン以降は大きく減少。いずれも当確ラインは層が薄い。
- ・ 前期センターは理科の割合がとて高く（全体の半分以上）、2 次では数学の配点が低い（820 点中 130 点）。
 - 理科の負担を嫌う層が逃げる傾向あり
 - センターの結果で出願傾向がかなり変わる可能性がある
- ・ 後期併願： 東京外大が増加、その他は横浜国大、千葉大だが割合は微減。
- ・ 私大併願： 慶応・商、明治・政治経済、早稲田・社会、中央・法

北海道大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	前期	100	119	63	101	109	63	106	112	63
法	前期	99	104	63	103	113	63	14	108	63
経済	前期	103	121	63	95	120	63	118	103	63
教育	前期	83	70	62	113	115	62	98	106	62
理	後期	87	97	65	97	129	65	102	114	64
工	後期	95	113	64	94	115	64	107	121	64
医	前期	89	138	71	99	186	70	111	110	70
歯	前期	95	100	62	92	117	61	114	129	61
薬	前期	100	128	67	101	112	67	105	106	67
農	前期	87	95	66	88	100	66	99	111	66
水産	前期	97	105	58	84	89	58	95	107	58
獣医	前期	80	113	70	95	145	69	101	100	69
総合文系	前期	103	107	63	99	109	63	114	111	63
総合理系	前期	99	113	62	94	114	61	102	106	61

① 文系前期：

- ・ 法と経済はこれまで片方が上がれば片方が下がる関係にあったが、今年度は両方とも維持～上昇。一橋の後期がなくなり、一橋が厳しくなることもあり、関東圏からの志望者が集まっていると推測される
- ・ 法は B ライン以上が減少しているため易化か
- ・ 経済は A ライン以上は変わらないものの、B ライン前後が減少し、平均偏差値は-0.9。

② 理系前期：

- ・ 東北大に流れていると考えられる

③ 総合入試は文系、理系とも微増～前年並み（文系 103、理系 99）

- ・2017 年度より理系総合は理科の解答時間を増やし、理科での差が付くようになった。
- ④ 文： 前期は 100。A ライン以下が減少、易化か。
- ⑤ 教育： 前期 83 で減、前年度（116）の反動。
 - ・後期は募集人員 10 人のところであり、小さな変化でも数字が大きく出やすい。
- ⑥ 駿台資料（マーク模試の第一志望者集計）では歯は前期 80 も、後期は 120 と乱高下あり。
 - ・2017 年度は前期、後期に偏差値差が大きくアップ（前期：指数 106、偏差値差+3.3、後期：指数 96、偏差値差+2.8）。あらゆる層で志願者減、易化。
- ⑧ 医は減。2016 年度までの反動あり。＜駿台資料： マーク模試の第一志望者集計より＞
 - ・駿台資料（マーク模試の第一志望者集計）では医（医）は前期 93、医（保健）は前期 84、後期 93。ただし偏差値水準は増もしくは維持。
 - ・2016 年度は 125、2016 年度は 124 と大幅に続伸していた。2017 年度は微増の 103。

東北大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	前期	105	108	63	98	97	64	122	117	64
法	前期	98	117	65	111	109	65	116	108	65
経済	前期	104	124	63	107	95	64	113	125	64
教育	前期	100	125	63	92	93	63	127	155	63
理	前期	92	111	64	96	98	64	101	95	64
工	前期	102	119	63	99	112	63	106	112	63
医	前期	103	116	71	92	96	71	103	141	70
歯	前期	102	110	63	100	102	62	97	116	62
薬	前期	89	124	65	106	100	65	93	89	65
農	前期	91	131	64	96	88	62	102	116	63

- ① 2016 年度は募集人数の変更あり。一般入試の募集人数減
 - ・東北大は入試改革に合わせ、全学部で一般と AO の割合を 7：3 にすることを進める。
- ② 前期は薬、理を除いて、志願者増。
- ③ 後期は経済、理のみ実施)
- ④ 文： 105 と指数を延ばすも A～C ラインは減、C ライン以下で増のため、易化傾向
- ⑤ 法： 指数 98、駿台資料（マーク模試の第一志望者集計）では前年度 113 に続き、106 と続伸。
 - ・B ライン以上は微増、B～C ラインに増加あり。ボーダーラインがやや厳しくなるか。
- ⑥ 経済： 続伸、難易度は前年並み。
 - ・後期が年々難化の傾向。東大前期受験者が続々流入。
 - ・阪大の後期廃止に伴い、2017 年は一層東大の前期受験者流入が顕著で、志願者指数

116、偏差値差は+3.7（駿台資料）と大幅上昇していた。

- ⑦ 教育は 100 と増。駿台資料では駿台資料では 116。B ライン以上の層が増加し、難化予測。
- ・教育は 2015 年 70、2016 年 117、2017 年 95 と揺り戻しが大きい
- ⑧ 農： 農学系統の不人気。ただし、B ライン前後がやや増える。
- ⑨ 工： 指数 102、B ライン以上で大きく増える学科はない
- ⑩ 理： 前後期ともに指数 93 で志願者減。B ライン以上に大きな変化はなく、C ラインもやや減程度が多く、大きな易化はないか。
- ・2016 年度以降、後期受験者の前期の併願先は、東大が 13 ポイント上昇で 1 位に。東北大、京大、東工大と続く。

筑波大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
人文文科	前期	107	124	65	96	93	64	116	119	64
社会国際	前期	97	122	65	10	89	66	115	124	66
人間	前期	100	132	64	98	85	63	110	119	64
情報	前期	115	127	59	100	97	59	114	109	58
理工	前期	96	120	62	102	108	61	105	97	61
医	前期	93	76	71	103	127	70	97	119	70
体育	前期	84	127	61	95	85	59	102	106	59
生命環境	前期	92	110	61	108	107	60	106	115	60
芸術	前期	84	88	58	90	96	58	116	93	58

- ① 2015 年度は入試変更が多く、敬遠されたが、2016 年度はその揺り戻しと第 1 次選抜廃止により人気回復。その後は変更が少なく、安定した入試動向。
- ② 情報（文・理）： 前後期ともに文・理の両方で志望者増。文系は前年度減っていたがその揺り戻し。
- ・セ 450：個別 800 の 2 次重視型なので、センターの結果に左右されず、この動向で進むか。

千葉大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	前期	95	102	62	87	90	61	112	101	61
法政経	前期	98	124	63	90	85	63	121	139	62
教育	前期	93	91	56	74	81	56	97	97	55
国際教養	前期	112	105	62	139	161	62	新設	新設	62
理	前期	87	80	60	91	96	59	99	94	60
工	前期	100	100	60	91	90	58	102	111	58
医	前期	83	116	71	96	108	70	111	153	70
薬	前期	90	126	65	88	72	66	100	114	66
看護	前期	98	99	59	77	73	58	111	118	57
園芸	前期	64	69	59	86	85	58	102	112	58

① 2015 年度からの入試変更と国際教養の新設で 2017 年度、2018 年度と国公立の志望者数全国 1 位となる。

② 入試変更で旧帝大と並ぶレベルに移行し、難関国立層を取り込む。

③ 後期は一橋大学の後期廃止による流入が見られる

④ 国際教養：

- ・ 90 名（通常型 80 名、特色型 10 名）の募集（通常型では英語外部試験を利用可能。特色型は小論文と英語面接）
- ・ 2016 年度新設の国際教養は初年度から難易度の高い入試だった。2017 年度通常型はさらに指数 139 と志願者を伸ばし、上位層も大幅に増えた。一方、特色型はもともと志願者の少なさに加え、指数を下げていた。
- ・ 通常型前期の指数は 111 だが、合格ライン以下が大きく増え、難易度に影響なし。
- ・ 併願先が広域にわたる： 都留文科大、国際教養大、高崎経済大、新潟県立大、山口大など → 広い地域からの受験生を取り込んでいる
- ・ 私大併願： 明治・国際日本、青山・国際政経、立命館・国際関係、法政・国際文化

⑤ 法政経：

- ・ 志望者は前年並み（前期 93、後期 101）
- ・ 後期志願者の前期併願は一橋・法が増える。難関大学との併願関係が強まる。2017 年度は一橋後期廃止により、その傾向が強まる可能性大。後期は偏差値 70 台の志望者が増えている（国公立後期の法学部は、首都圏では千葉大と首都大しかなく、流入が確実） → 難化
- ・ 千葉大前期志望者が後期を受けた場合、2016 年度は合格率 7.5%、2017 年度は 0% という厳しい数字）
- ・ 記述偏差値で前期は 60 以上、後期は 70 以上
- ・ 私大併願： 法政、中央、明治。ただし、中央法は合格率 4%弱と厳しい結果に。

- ⑥ 文： 志望者減（指数は前期 91、後期 87）、ただし前期の平均偏差値は+1.3 でレベルは下
がらず
- ⑦ 教育：
- ・ 2017 年度から、小学校で面接、中学は適性検査が加わる。入試変更を嫌って、2017 年度は大幅に志望者減（指数 74）で易化。
 - ・ 千葉は個別重視、埼玉はセンター重視
- ⑧ 理：
- ・ 志望者続落（前期 87、後期 93）。全学科軒並み減少。
 - ・ 2017 年度は上位層は大きく変わらなかったが、2018 年度は B ライン前後が減り、前期は易化予想。
- ⑨ 工：
- ・ 学部改組 工学部 10 学科が総合工学科 9 コースに再編。
 - ・ 前期は前年並み（指数 100）、後期はやや減（95）
 - ・ 総合／情報工は指数 145 で B ライン以上も大きく増加で難化。
- ⑩ 医：
- ・ 指数 83. 昔なら医学部に来ていた受験生が、東大、京大の理工系に流れている。
 - ・ 2017 年度から後期は総合問題、面接が、数学、理科 2 科目、外国語という学科試験に変更される。
- ⑪ 園芸：
- ・ 入試変更（2018 年度）： 個別試験で理科 1 科目から 2 科目、さらに数Ⅲ必修
 - ・ 入試変更のあった学科は志望者大幅減
前期指数； 緑地環境 60、園芸 60、応用生命化 53
 - ・ 一方で科目変更のない食料資源経済は 126 と大幅増、他 3 学科の受験生が流入

横浜国立大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
経済	前期	108	126	64	87	87	64	109	101	64
経営	前期	100	140	63	101	93	63	103	111	63
教育	前期	80	73	55	56	54	57	92	89	57
都市科学	前期	106	135	61	155	172	60	---	---	---
理工	前期	100	117	61	98	89	60	100	98	60

① 2017 年度学部改組、募集変更

教育人間科、理工 → 教育、都市科（文理融合型）、理工

経済と経営は学部一括募集に変更。

② 経済：

- ・前期指数 108 で志望者増
- ・ここ数年センター得点率 70%台後半以上が目安
- ・数学、英語ともに記述模試偏差値 60 代後半を確保したい
- ・セ 900：個別 800

③ 経営

- ・前後期ともに前年並み
- ・セ 900：個 100 → センター結果次第で経済に移ることも

④ 教育

- ・2018 年度は入試変更（集団面接、小論文）＋一般入試の募集 26 人減（160 人→134 人）
- ・方式変更を嫌い、志望者指数 66 で大幅にダウン
- ・全ての層で大幅に志望者が減り、易化必至。

⑤ 理工：

- ・全体では前年並み。
- ・情報工は指数 135 と大幅に増加も、B ライン以下が多い。ただしやや難化の可能性も。
- ・理工の学内併願の合格率が低い（2%）。併願変更の可能性として埼玉大など。

⑥ 都市科学（設置 2 年目）：

- ・建築は引き続き人気で指数 104 と安定。に志望者が集まる（2017 年度指数は 140 の大幅増だった。）
- ・情報工は指数 135 と大幅に増加も、B ライン以下が多い。ただしやや難化の可能性も。
- ・理工同様、学内併願の合格率が低い（11%）。併願変更の可能性として芝浦工大など。
- ・小論が個別試験で課される（200～300 点）。

⑦ 後期は一橋大学前期の併願者がやや増えた。

横浜市立大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
データサイ	前期	新設	新設	57	---	---	---	---	---	---
国際総合	前期	106	104	58	105	105	57	107	107	57
医	前期	97	127	70	91	119	69	91	82	69

① 出願方式変更： A 方式（セ 5 教科 7(8)科目型）、B 方式（3 科目）。

- ・国際総合科では、A・B 方式とも受験を満たす場合は大学側で自動集計し、どちらか

で合格に達すればよい。

- ・理学系は志願者が方式を選択して出願する。

② データサイエンスの新設により、文系の第一志望者の指数 116 と大きく上昇。

③ 国際総合科学：

- ・経営科は A 方式、B 方式ともに増加。B ライン以上も増え、難化予測。
- ・2017 年度に理系はセンターでの英語配点が 300→500 と変更された（2 次では英語なしで、数学、理科重視）。昨年は志願者減につながっていた（前年度指数 90）。

④ データサイエンス学部（新設）

- ・滋賀大学に続く全国 2 番目の学部。
- ・英数ができる生徒を集めたいという入試
（前期：セ・外国語 500、数学 300／1300、個別・数学 400／700）
- ・さらに図表データーや文章の情報に基づいた論説能力を問う総合問題を出题。
- ・マーク模試では 274 人の志望者が見られた（定員 40 人）
- ・初年度ということもあり上位者がいない。マーク模試 B 判定地 57。

東京外国語大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
言語文化	前期	95	128	68	93	95	67	106	94	67
国際社会	前期	106	125	66	95	97	66	106	100	66

① 言語文化：指数 95（前年度指数 93）

② 国際社会：指数 106（前年度指数 95）

③ センターの合格得点率のラインは各学科 85～90%程度。

④ 偏差値 70 台付近の上位層における志望者数が多い。上位者指数は 125 と 128。

東京学芸大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
教育	前期	93	94	58	99	90	58	101	106	58

- ① 指数 93 で減少も、B ライン以上は大きく変わらず、前年並みの難易度か。
 ② 第 1 志望者の指数は前期文系 91、後期文系 85 と大きく下がる。

東京海洋大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
海洋工	前期	79	80	52	102	112	52	103	99	52
海洋生命	前期	94	79	59	110	129	60	97	104	60
海洋資源	前期	78	90	60	94	98	60	---	---	---

- ① 2016 年度より英語外部試験のスコア提出が義務化、2018 年度から本格実施だが、今年度も経過措置でセンター英語での得点率での出願も可能。
 ② 3 学部とも志望者が大幅減。
 ・海洋工 52（前年度 102）、海洋生命 59（前年度 110）、海洋資源 60（前年度 94）
 ③ 首都圏の海洋工の中ではもっとも難易度が低い。

電気通信大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
情報理工	前期	98	97	58	102	124	57	78	79	57

- ① 情報理工： 前期 98、後期 96、B ライン以上の分布はほぼ昨年と一致。
 ・前期は入学後に学類を選び、後期は学類別の募集。
 ・後期人員が多いが、1 類のみ志望指数上昇。
 ② 2016 年度から個別重視型に移行、さらに上位 50 名は 2 次の結果のみで合格になる。東工大のようなスペシャリスト育成志向。

東京農工大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
工	前期	99	91	59	97	96	58	94	106	58
農	前期	88	97	62	93	96	60	99	104	60

- ① 農の不人気で大学全体で低調。
- ② 工 前期：
- ・前年度は倍率が 1.9 倍となり、偏差値 60 台の高確率が上がり、易化。
 - ・今年度は前年並み。指数 99。後期は比較的に人気ある。
 - ・物理、情報工は上昇気味。後期も順調。
 - ・2015 年度からセンター重視型に移行（セ 900／個 500）
- ③ 農： 農の不人気により、前期は獣医以外は志望者減少。後期は軒並み減少。

首都大東京

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
法	前期	124	145	64	---	---	---	107	109	59
経済経営	前期	123	116	61	---	---	---	---	---	---
人文社会	前期	115	---	61	---	---	---	---	---	---
都市教養	前期	改組			106	105	59	107	109	59
都市環境	前期	112	110	57	116	97	56	108	110	56
理	前期	132	120	58	---	---	---	---	---	---
システム	前期	110	---	58	100	86	56	112	116	56
健康福祉	前期	100	92	55	100	86	55	107	105	56

- ① 改組：
- ・都市教養学部を人文社会、法、経済経営、理の 4 学部にも再編
 - ・電気、機械はシステムデザイン学部へ統合
 - ・都市政策コースは都市環境学部へ統合
- 各再編学部および大学全体の志望者指数の増加
- ② 法
- 私立文系型（3 教科 3 科目）の受験を設置
- ③ 人文社会
- ・指数 115 も B ライン以下が上昇で前年度並み

- ・前年度ではやや難化傾向で、記述模試 60 前後の合格率が下がる
- ④ 理：
 - ・前期 132、後期 122 と大きく上昇。
- ⑤ 都市環境： 前期 112、後期 92
 - ・建築は指数 92 で減（前年度 119）、B 以上は変わらず前年並み
 - ・横浜国大・都市科学／建築との併願関係が強い
- ⑥ システムデザイン： 前期 110、後期 112
- ⑦ 理科 1 科目で受験可能。受けやすいものの歩留まりも悪い。入学率が約 80%であり、10%の割増で合格者を出す。

埼玉大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
経済	前期	105	106	57	103	103	57	113	114	50
教育	前期	94	91	53	92	88	53	110	115	53
教養	前期	107	107	58	120	127	58	113	115	56
理	前期	101	89	57	95	88	56	89	84	56
工	前期	86	86	53	105	89	54	99	96	54

- ① 2015 年度は全体として低調。2016 年度は一部を除いて前年並み。回復には至らず。
- ② 経済（一般枠）：
 - ・指数 106。募集人員が 200 人から 195 人に減り、合否ラインがやや厳しくなる。
 - ・2016 年度から志望者が続伸（国際枠からスライドした影響）している。
 - ・中後期併願： 流通経済大、福島大、新潟大、群馬大など首都圏外が名を連ねる。
 - ・私大併願： 法政、中央、明治などが見られるが、2017 年度は厳しい結果に。
- ③ 経済（国際枠）は指数 87 で志望者減、B ライン以上も志望者が減り易化。募集単位が少ないの指数の上下が激しく見える部分もあり。
 - ・2015 年度は 138、2016 年度は 60、2017 年 121 と隔年現象
- ④ 教育： 学部全体の志望者数は減少（指数 92）。上位者もやや減少。学科によっては上位者減少が顕著なところも
 - ・入試変更： 総合問題の範囲に倫理が含まれる。
 - 2016 年度 地理 B、政経 → 地理 B、倫理政経
 - ・2016 年は後期廃止 → 前期は志望者増（指数 110）。
 - ・2016 年度より後期廃止： 茨城大学・後期との併願関係が強く、合格率も高い。
 - 都留文科大・後期併願の志望者増
- ⑤ 理：

- ・前期指数 101。昨年までの落ちていたのが止まる（2017 年度は前後期共に指数 95）。
- ・後期： 数学科を除く 4 学科は個別試験の英語がなくなり、負担減も指数は 99 で動向に変化なし。

⑥ 工：

- ・学部改組、7 学科を 5 学科に再編 + 入学定員増（440 人 → 490 人）
- ・入試変更： 前期は小論が課される
- ・指数： 入試変更を嫌って前期 86、後期 95
- ・2015 年度からセンターの国語が現代のみで出願できるようになったが、2017 年度はセンター国語の平均点が低く、志願者が増加し、その結果難易度が上がった。

⑦ 教養：

- ・指数： 前期 107、B ライン前後の志望者が増え、難化予測。
- ・2017 年度は前期、後期共に指数 120 程度で志望者大幅増。B 以上も大きく伸びていた。
- ・後期併願： 2017 年度の学内併願は合格率 0% で厳しい入試に。他の併願先は茨木大、新潟県立大、都留文科大が並び、合格率 80～90%
- ・私大併願：法政、東洋、東京女子、など。

お茶の水女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文教育	前期	100	104	65	103	101	66	103	97	66
理	前期	86	69	63	108	131	62	98	91	62
生活科学	前期	113	156	65	103	98	64	99	106	64

① 全体として人気が続く。倍率もやや上がり気味。

② 生活科学部心理学科を新設

- ・マーク模試では 153 人の志望者（定員 23 人）
- ・併願候補： 筑波、お茶の水学内併願、首都大、千葉大の順
- ・私大併願候補： 上智、立教、早稲田、明治、慶応の順

③ 文教育： 前年並み（指数 100）

④ 理：

- ・2017 年度は前期、後期共に志望者増（前期 108、後期 137）だったが、今年度は理系不人気の波にのまれて減。

D 大学×学部系統の動向 <国立>

注意

東大、一橋、東工大など超難関大学は、ここまで上位者の集まる駿台全国模試を中心に動向を見てきた。以下の数字は、より一般的な受験者を包括した駿台・ベネッセマーク模試の数字である。特に東大はマーク模試では全体の指数を下げたが、駿台全国模試では特に文系では上位者が残り、志望者を伸ばしているところもある。以下は、「東大の弱気傾向」ということも含めて、マーク模試の一般的な志望動向として見ていただきたい。

駿台資料（マーク模試の第一志望者集計）より

- ① 人文科学： 志望者指数 99 で前年並み（2017 年度 99、2016 年度 107）
 - ・最上位の東大が弱気（93）で、筑波大・人文 113、東北大 116 などが増える。
 - ・お茶の水女子の人气が顕著
 - ・2 次の個別試験で数学が必須な大学では東北大が増、千葉大は減
- ② 法学： 全体では指数 99 だが、全体的には人气が上がっている（2017 年度 107）。
 - ・2016 年から続く法学系統の人气回復。
 - ・東大は 98、昨年度は弱気傾向で東大は 91。
 - ・一橋 105、東北大 106、北海道大 106 などが志望者増。
- ③ 経済： 志望者増、指数 103（2017 年度指数 106）
 - ・経済人気。偏差値層と人气が比例。
 - ・東京大学はやや弱気で 98。一橋大は経済が 110、商が 105
- ④ 社会・国際： 社会 118（2017 年度 95、2016 年度 111）
国際 104（2017 年度 105、2016 年度 111）
 - ・国際はずっと人気（ただしやや勢いが弱まった感あり）、社会は人気を戻す
 - ・東大は 93 で弱気、他系統では人気のある一橋大学も 99。偏差値の低い大学に人气が出ており、弱気傾向が見て取れる。
- ⑤ 教育： 指数 92。2017 年度も 92。
 - ・昨年はゼロ免過程廃止に伴う募集減も影響し、志望者減の学校が多かった。2017 年度に志望者を増やした静岡大（73）や北大（97）は志望者減も見られる。
- ⑥ 物理： 指数 93（2017 年度 94）
 - ・東大 95、東工大 109
- ⑦ 化学： 指数 96。2017 年度 88、2016 年度 95 に続き続落。
 - ・東大 95、東工大が 114
 - ・2017 年度増加の横浜国立は 100 で前年並み。同じく 2017 年度増加のお茶の水女子は 80 と大幅減。
 - ・昨年度下落の大きかった千葉大は 100、筑波大 101 は前年並みも回復できず。同じく

下げ幅の大きかった埼玉大 105 でやや戻す。

⑧ 機械： 指数 93. 昨年度は 104.

・ 東大 95、東工大 102

⑨ 電気電子： 指数 94

・ 東日本の大学に人気が偏る

⑩ 情報： シス 117

・ 全体的に人気がある

⑪ 建築・土木、環境： 指数 100. 2017 年度は 106、2016 年は 107. 人気が落ち着き始める。

・ 東工大、東北大、横浜国立大が志望者増

⑫ 農・水産： 指数 91 (前年度 95)。

・ 多くの大学が志望氏を減らす。2017 年度は全ての大学で志望者減。

・ 理科 2 科目を課す東大、東京農工大、千葉大は志望者減を減らす
(東北大は 100 で維持、北海道大は 106 で増やす)

・ 千葉大は入試変更で指数 43 と大幅減

⑬ 看護： 指数 100 (2017 年度も 100)

・

・ 2015、2016 年度は基礎 2 科目、専門科目のみ、といった受験パターンの影響を受けた。2016 年度は、両方のパターンにそれぞれ増減が見られる。

・ 今年志望者増減の分布はバラバラだが、これまでの反動で 2 科目受験型も指数が 100 を超える大学が増える。

・ 最上位の東京医科歯科は 96

⑭ 薬学： 指数 100. 指数 99. 東大は 90。

・ 4 年制は研究型、6 年生は国家資格型。

・ 難関大学は研究志向が多く、大阪大 (107)、九州大学 (110) など人気のある大学もあるが地方大学は資格を取りたい生徒が多く、4 年生の志望者数が大きく減る大学も多い。

・ 東大は 80 で大きく減。

・ 東日本は薬学が少ない (6 大学のみ) であり、全国まで幅を広げて考えていくとよい。

E 大学別動向 私立

第 1 回ベネッセ・駿台マーク模試 主要私大 4 か年の志望者数の推移 (%は前年度比)

	2017 年模試		2016 年模試		2015 年模試		2014 年模試	
早稲田大	53,149	101%	52,463	102%	51,192	111%	46,292	99%
慶應義塾大	22,080	89%	24,787	101%	24,594	116%	21,272	102%
上智大	16,917	110%	15,312	92%	16,594	102%	16,322	118%
明治大	57,284	100%	57,428	100%	57,664	110%	52,485	101%
青山学院大	32,300	97%	33,310	103%	32,196	114%	28,207	107%
立教大	34,372	102%	33,723	103%	32,798	102%	32,227	106%
中央大	28,529	97%	29,329	101%	29,180	121%	24,195	93%
法政大	43,095	102%	42,418	112%	37,722	106%	35,726	100%
日本大	54,264	94%	57,883	105%	55,191	102%	53,910	109%
東洋大	37,698	100%	37,800	127%	29,793	91%	32,569	98%
駒沢大	20,031	94%	21,341	108%	19,840	114%	17,338	107%
専修大	15,113	97%	15,574	111%	14,030	112%	12,490	96%
大東文化大	9,184	126%	7,297	91%	8,018	95%	8,396	130%
東海大	17,432	102%	17,033	91%	18,692	99%	18,861	106%
亜細亜大	6,559	84%	7,819	111%	7,050	115%	6,135	106%
帝京大	15,552	96%	16,268	103%	15,795	91%	17,430	108%
国士舘大	7,486	99%	7,529	97%	7,741	100%	7,768	116%
國學院大	10,234	105%	9,724	98%	9,928	113%	8,819	110%
学習院大	10,414	94%	11,074	110%	10,080	128%	7,895	94%
成蹊大	11,955	94%	12,657	109%	11,586	104%	11,099	96%
成城大	7,486	101%	7,391	96%	7,663	111%	6,876	112%
武蔵大	5,116	97%	5,290	106%	5,012	111%	4,520	103%
明治学院大	16,297	108%	15,125	103%	14,701	106%	13,829	110%
東京女子大	3,968	101%	3,941	103%	3,825	96%	3,983	100%
日本女子大	6,259	99%	6,342	100%	6,373	105%	6,042	94%
津田塾大	2,348	98%	2,397	125%	1,921	91%	2,106	110%
東京理科大	22,579	101%	22,422	102%	22,047	99%	22,289	96%
工学院大	5,725	86%	6,672	104%	6,425	104%	6,176	127%
芝浦工大	14,954	109%	13,676	94%	14,567	104%	14,024	104%
東京農大	9,962	91%	10,952	97%	11,233	96%	11,688	100%
東京電機大	8,068	94%	8,548	106%	8,072	99%	8,164	105%
東京都市大	4,751	114%	4,169	95%	4,382	91%	4,808	101%
東京工科大	5,146	95%	5,419	96%	5,655	110%	5,142	117%
千葉工大	5,811	94%	6,193	102%	6,086	134%	4,541	127%
北里大	10,706	94%	11,332	95%	11,931	105%	11,389	99%
順天堂大	7,096	88%	8,044	105%	7,676	104%	7,403	100%
文教大	9,085	89%	10,204	101%	10,063	112%	9,014	96%
獨協大	8,804	110%	8,039	101%	7,993	112%	7,126	98%
神田外国語大	4,547	87%	5,226	90%	5,806	113%	5,136	113%
立正大	4,651	98%	4,744	109%	4,363	99%	4,397	105%
明星大	3,816	99%	3,842	90%	4,259	106%	4,016	104%
東京経済大	4,778	106%	4,491	115%	3,898	115%	3,389	113%
桜美林大	3,609	104%	3,478	95%	3,655	117%	3,136	104%
神奈川大	12,748	105%	12,189	96%	12,710	111%	11,455	95%

<概況>

- ① 私大全体指数 98 で私大の志望者増が落ち着いたと言える。
 - ・2017 年度は新設学部、学科などの影響もあり、実志願者指数は 107。それまでも私立志望者が増えていた。
- ② 入学定員の厳格化による合格者の絞り込みが厳しい（P4 を参照）
- ③ 合格者の絞り込みを恐れて、1 つ下のランクを抑えに来る受験者が増える。東大、京大と同じく、私立最上位の慶応の受験生が減り、早稲田、上智に流れ、早慶上智の層がさらに GMARCH に流入。また GMARCH レベルがその下に流れるといった雪崩現象が見える。
 - ★ 各大学の表で上位者指数が軒並み高く出ていることに注意。全体の志望者を減らした大学も上位者は増える傾向がほとんどの大学、特に文系学部で顕著にみられる。
- ④ 2017 年度に志望者数が増加した日東駒専は志望者減。また合格難易度が低い大学は志望者減の傾向がより強くなる。
- ⑤ 理工系は東京理科大、芝浦工大、東京都次第を除いて、軒並み志望者減。良くて維持。
- ⑥ 志望者増が見られる大学： 早稲田、上智、立教、法政、国学院、明治学院、大東文化、芝浦工大、獨協、神奈川、東京経済
- ⑦ 志望者減が見られる大学： 慶應、学習院、日本、駒澤、亜細亜、工学院、東京農大、北里、順天堂、文教、神田外語

早慶上智・MARCH 系統別志願動向（ベネッセ 出願ガイドブック秋・冬号 編集）

人文科学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	文	107	104	112
	文化構想	98	117	116
慶應	文	90	104	120
上智	文	116	90	103
明治	文	98	97	115
青山学院	文	95	102	110
	総合文化	101	97	128
立教	文	100	104	103
	異文化コ	92	93	99
中央	文	105	98	129
法政	文	102	115	101
	国際文化	90	119	94

語学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	国際教養	89	95	110
上智	外国語	107	92	102
	国際教養	130	75	92
	総合グロ	102	118	107
明治	国際日本	91	104	105
青山学院	国際政経	94	107	106
	地球社会	112	124	109
法政	GIS	105	99	120

法学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	法	104	99	107
	政治経済	99	97	121
慶應	法	86	102	117
上智	法	117	88	108
明治	法	104	98	114
	政治経済	98	102	124
青山学院	法	96	109	116
立教	法	101	105	110
中央	法	91	105	124
	総合政策	102	109	113
法政	法	101	111	106

経済学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
慶應	経済	90	101	122
上智	経済	117	96	103
青山学院	経済	98	107	125
立教	経済	101	106	111
中央	経済	94	107	132
法政	経済	101	126	113

経営学・商学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	商	103	105	117
慶應	商	92	102	122
明治	経営	104	119	99
	商	100	106	118
青山学院	経営	102	112	118
立教	経営	98	112	99

社会学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
明治	情報コミ	100	105	117
立教	社会	105	107	100
	観光	107	104	99
	コミュニ	115	99	103
法政	社会	107	104	108
	現代福祉	92	106	112

中央	商	96	106	136
法政	経営	101	122	107

総合科学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	人間科学	114	113	106
	社会科学	109	104	106
慶應	総合政策	89	100	126
	環境情報	88	95	114
青山学院	社会情報	100	101	120
立教	現代心理	114	102	102
法政	人間環境	116	114	118
	キャリア	99	104	114

教育学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	教育	100	102	113
上智	総合人間	107	91	98
青山学院	教育人間	94	93	109

理学・工学系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	基幹理工	99	110	106
	先進理工	95	92	101
	創造理工	98	96	112
慶應	理工	89	101	109
上智	理工	114	87	97
明治	総合数理	109	95	93
	理工	103	96	103
青山学院	理工	93	99	111
立教	理	96	90	94
中央	理工	97	94	107
法政	理工	107	105	95
	情報科学	113	112	108
	生命科学	96	108	112
	デザイン	102	110	105

その他の系統

大学	学部	模試年度		
		‘17	‘16	‘15
早稲田	スポーツ	102	104	99
慶應	看護医療	94	103	122
	薬	86	95	108
明治	農	94	87	103
法政	スポーツ	99	102	109

<大学別>

慶應義塾大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	個別	90	88	72	104	71	74	120	120	74
法	個別	86	85	76	102	85	76	117	132	77
総合政策	個別	89	111	72	100	69	73	126	172	74
経済	個別	90	109	74	101	70	75	122	145	75
商	個別	92	104	72	102	72	73	122	141	74
理工	個別	89	85	66	101	96	66	109	95	67
環境情報	個別	88	89	65	95	83	66	114	118	67
医	個別	89	92	72	99	101	74	106	137	73
薬	個別	86	93	66	95	78	66	108	103	68
看護医療	個別	94	98	62	103	109	62	122	114	62

- ① 全ての学部で志望者が減少。大学全体の指数は 89。他大学の上位者指数が軒並み増える中、慶應は低調でほとんどの学部で上位層も減る。
- ・私大の合格者絞り込みで弱気受験。論文プレッシャーを回避をしている傾向も。
 - ・2017 年度は志望者の増加が止まるとともに、ほとんどの学部で上位者が減り、志望者の偏差値レベルは軒並み下がる。
 - ・2015 年、2016 年と、私立人気に加え、入試日の前倒しによる国公立層の取りこみで志願者が増えていた。今年度は落ち着いた出願動向。
- ② 2015 年度の入試日前倒しにより、医学部以外は国公立前期の前に合格発表が行われる。
- ・2016 年度は環境情報も前期試験後だったが、2017 年度は前期試験前に発表。
- ③ 経済： 志望指数 90。今年度も A、B 方式ともに上位者の減少が見られる。偏差値差－1.1。
- ・2017 年度は指数 100 だったが、上位者層が大きく減っていた（平均偏差値差＝2.3）。
 - ・A 方式（理系型）、B 方式（文系型）も指数 100 程度。A 方式では顕著に上位層が減っている。
- ④ 法： 志望者指数 86。政治、法ともに C 以上で大きく減少し、易化必至
- ・法政・法と同日日程で、法政の増加と関係性がある。もしかしたら法政に志望者が流れている？と言われるほど絞り込みによる弱気傾向が見られる。
- ⑤ 商： 指数 92、C 判定以上が大きく減り、易化。
- ・A、B 方式ともに C ライン以上が減るが、A 方式はより顕著。
 - ・2016 年度は C 以上の志望者増で難化。2017 年度は上位者が減っていた。

- ・慶應・経済との学部内併願が多い。
- ⑥ 文： 指数 90。上位層が減少。偏差値差も－0.8。
- ⑦ 総合政策： 指数 89 も偏差値差＋0.2。上位層に変化はなく、前年並みの入試。
- ⑧ 環境情報： 指数 88。上位層は大きく変わらず。
 - ・同じ SFC でも B 判定値は総合政策の 71 に対して、環境情報は 66。
- ⑨ 理工： 指数 89
 - ・全体的に B ライン以上が減少。昨年も最上位が減っていた。
- ⑩ 薬： 指数 86。全体的にまんべんなく志望者減。C ライン以上もずいぶん減少。
- ⑪ 看護医療： 指数 94。減少は下位層で入試レベルに影響はなし。
- ⑫ 医： 指数 89。偏差値差も－1.4。C ライン以上は大きく減少。易化必至。とは言っても医学部。

早稲田大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	107	139	71	104	107	72	112	128	73
文化構想	合計	98	155	71	117	109	72	116	141	73
法	合計	104	155	73	99	91	74	107	119	75
政治経済	合計	99	137	74	97	82	75	121	121	76
商	合計	103	151	72	105	91	74	117	145	75
社会科学	合計	109	140	72	104	90	74	106	147	74
教育	合計	100	126	68	102	96	70	113	115	70
人間科学	合計	114	144	67	113	115	67	106	118	67
国際教養	合計	89	102	72	95	91	74	110	118	75
基幹理工	合計	99	100	65	110	106	66	106	101	66
創造理工	合計	98	99	65	96	94	65	112	110	65
先進理工	合計	95	90	66	92	87	67	101	90	68
スポーツ	合計	102	128	67	104	108	66	99	88	66

- ① 全体的としては志望者微増。指数 101。文系学部の上位者指数は軒並み高い。
 - ・慶應が指数 89 の中、早稲田は大きく下げていない。
 - ・文系学部は志望者を増やす学部が多い。
 - ・政治経済（99）、国際教養（89）という最上位の学部は増えていない。早稲田の中で学部選びをし、他学部に流れていると推測される。
- ② 2017 年度に文、文化構想の一般に英語外部試験利用型が新設。
 - ・文： 一般 390 名、外部試験利用型 50 名
 - ・文化構想： 一般 430 名、外部試験利用型 70 名
- ③ センター利用入試は全体的に志望者増。

- ・国際教養は 87 で減。人間科学（文）は 99 で微減。
 - ・2017 年度は減、2016 年度は増と隔年現象。
 - ・センター後の 1 月 16 日に出願締め切り。結果次第で、単独か併用を考える。
 - ・難関国公立志望者の出願が見込まれる。
 - ・9 割以上の得点率が合格ラインか
- ④ 法： 指数 104。
- ・入試変更： センター併用型で数学が利用可。国立文系の上位者が欲しいという意図。
 - ・C ライン前後でやや増加。数学で増えた上位者。B 以上は変わらず。
- ⑤ 国際教養： 指数 89
- ・入試変更： 英語試験が 100 点から 85 点に縮小。リスニング廃止。15 点分は英語外部試験の点数で加算。
 - ・実質上英検準 1 級が合格らの最低ラインになるため、志望者は減。
 - ・C ライン前後で大きく減り、またそれ以上の層も減っている。易化。B 判定値は 2016 年の 75 から 72 まで下がる。
- ⑥ 文、文化構想： 指数 文 107、文化構想 98
- ・文は B～C ラインがやや増える。文化構想は C 前年並み。
 - ・トップ層は変わらないが、C ライン前後で志望者が増加も。募集減の中で難化予測。
 - ・文化構想は近年実質倍率が上昇中。2017 年度の入試結果では偏差値 70 台の合格率が各層 20%ほど低くなり、レベル上昇が見て取れる。2018 年度は C ライン以上が増加し、難化傾向。
 - ・2017 年度より英語 4 技能テスト利用で、一般方式は文で 50 名減、文化構想で 70 名減。初年度は実質倍率 1 倍台とかなりの低倍率。合格者の平均偏差値も 4～5 ポイント低かった。
 - ・センター単独、併用ともに両学部とも指数 110 前後と増加（2017 年度は併用が減っていた）
 - ・英語 4 技能テスト利用型は 2017 年度模試では前年比で文 121、文化構想 188 と上昇も 3 教科型に比べればまだまだ低倍率、低難易度。
 - ・駿台の分析では文化構想の英語利用型は、指数 188、平均偏差値も 2.7 ポイントアップ。C ライン以上が大幅に増え、大きく難化予測。
- ⑦ 政治経済： 指数 99。
- ・政治、国際政治は C レベル以上に大きな変化なし
- ⑧ 商： 指数 103。ほぼ前年並み。
- ・毎年少しずつ C ラインが上がっていく感あり。政治経済との併願が多く、厳しい入試が展開される。
- ⑨ 社会科学： 指数 109 で志望者増。増加は C ライン以下が主で前年並みの入試に。チャレンジ層は厳しくなる可能性あり。
- ⑩ 教育、全体としては指数 100 と前年並み。一方で昨年度に続き、レベルは下がる専攻もあり。
- ・英語英文、数学は C ライン以上が増えている傾向も見取れる。

- ・社会は各層で志望者減となり易化。
- ⑪ 基幹理工： 指数 99。志望者を減らす学系も。
 - ・学系Ⅰは C ライン以上で幅広く志望者減。平均偏差値も 1 ポイント以上下がる。
 - ・学系Ⅱは B～C ラインで志望者増。ボーダーの合格は厳しくなるか。
- ⑫ 創造理工： 指数 98。
 - ・建築、総合機械工、社会環境工は C ライン以下が増えるも C ライン以上は志望者減。
 - ・経営システムは上位層がやや減。
 - ・環境資源工は全体的に志望者減。C ライン以上も大きく減。
- ⑬ 先進理工： 指数 95。いずれの学科も C ライン以上も減。電気・情報生命工はやや減程度。
- ⑭ 人間科学 指数 114 の増。人間環境科、人間情報科ともに C ライン以上に増加見られ、難化。

上智大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	116	135	68	90	74	68	103	97	68
神	合計	138	169	58	73	60	58	100	121	58
外国語	合計	107	130	69	92	90	69	102	90	69
法	合計	117	177	71	88	86	72	108	96	72
経済	合計	117	159	68	96	68	68	103	91	68
総合グロ	合計	102	170	70	118	131	70	107	82	70
総合人間	合計	107	131	67	91	78	67	98	94	67
国際教養	1 期	130	125	71	75	86	71	92	85	71
理工	合計	14	118	62	87	77	62	97	88	62

- ① 2017 年度入試では、他大が合格者を絞る中、前年度比 104% の合格者を出した。その影響と TEAP 利用型の志望者増で今年度は大学全体として指数 110 と高い数字になる。上位者指数がとても高く、どの学部もボーダーラインで厳しい入試が予測される。
 - ・2015 年度は TEAP の影響、総合グローバルの勢い、インターネット出願で全体の指数が 120 を超える人気だが、2016 年度には人気頭打ち、2017 年度は志望者減（指数 92）と下がっていた。
 - ・全ての学部で志望者増加。
- ② TEAP 利用入試も全体的に志望者増。
 - ・2017 年度は全学部 4 技能が必須となり、敬遠する動きがあった（志望者指数が 50 台の学部もあった）、今年は上智人気、外部試験利用の広がりもあり、増加に転じる。
 - ・TEAP 利用入試は他教科でも文章理解力、論理的思考力など総合的な力を問うものにシフト。400 字程度の記述を含む。
 - ・2015 年度には 2 ケタ、場合によっては 20 台もあった倍率は、2016 年度には 3～4 倍

台が主になり、落ち着く。

- ・ TEAP 利用型の方が、一般より判定偏差値は 1～2 ポイント低いのが相場。
(ただし、英語が本番では換算されないため、影響のある差なのかは不明)

③ 法、経済：ともに全体指数 117

- ・ C ライン以上が大きく志望者増で難化必至。

④ 外国語： 指数 107。前年度指数は 95。

⑤ 総合人間： 指数 107。昨年の減少を回復。

- ・ 2017 年度は数学、理科の範囲が変更され、負担増による志望者減 (指数 93)。
(数学は数ⅡB まで、理科は専門までとなった)

⑥ 総合グローバル： 指数 102 で前年度並みを維持。

- ・ 2016 年度まで実質倍率を下げていたが、2017 年は反動で指数 118。
- ・ 私大併願： 上智・外、法、早稲田・国際教養、文化構想、明治・国際日本

東京理科大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
経営	合計	102	118	63	110	103	63	146	150	63
理	合計	101	112	63	95	90	62	89	88	63
工	合計	108	108	63	116	117	62	100	99	62
理工	合計	92	104	61	96	89	60	108	107	60
基礎工	合計	113	119	60	101	107	59	92	84	59
薬	合計	104	110	64	95	77	64	79	96	65

* 理学部第二部は除く。

① 試験日程： 2017 年度より全 12 日間が 9 日間に短縮

- ・ 同一試験日で受験科目が同じであれば、2 学科まで出願可能。(検定料割引あり)

② 2017 年度は定員充足率の対応として、学科名称変更、定員 283 名増加し、合格者も増やしていた。今年は B 方式で定員減。競争が厳しくなる。B 方式は 455 名の定員減。推薦入試は拡大。

- ・ 薬 110 名 → 80 名 (−30) 基礎工 180 名 → 147 名 (−33)
- ・ 工 308 名 → 224 名 (−84) 理 420 名 → 294 名 (−126)
- ・ 理工 684 名 → 508 名 (−176 名) 経営 200 名 → 194 名 (−6)

③ 一方、経営／ビジエコ以外でも、グローバル方式を開始。143 名の定員新設。

- ・ 薬 10 名、基礎工 15 名、工 24 名、理 30 名、理工 52 名、経営 12 名

④ グローバル方式の志望者は模試段階では低調。単純倍率 1 倍台もざらにある。

⑤ 経営： 学部全体で指数 102

- ・2016 年度は神楽坂へのキャンパス移転、ビジネスエコノミクス学科新設で志願者を大幅に増加させ、難化させた。2017 年度は増加。2018 年度も勢いを維持。実質倍率も 4 倍台後半に突入。
 - ・ビジネスエコノミクスはセンター方式 103、一般方式 118 と続伸。ただしグローバル方式は指数 41。2017 年度模試では 7 人の定員に対して志望者は 41 人。
 - ・ビジエコ<グローバル> TEAP スコアだけだったが 2017 年度から他の試験も活用可 → 基準を満たせば数学 1 科目のみの受験
- ⑥ 工： 学部全体の指数は 108。昨年度の 116 に続き続伸。
- ・情報工の人気は継続。個別、センターともに指数 123 (2017 年度 140、2016 年度 211)。C ライン以上が増え今年も難化傾向。
 - ・建築も 104、105 と多少勢いを落とすも続伸 (前年度 115)。
- ⑦ 理： 指数 101。続いていてた志望者減を止める。
- ・2016 年度は慶応・理工とバッティングし、上位層を減らす。
 - ・建築、情報科学、先端化はその中でも志望者増加。
 - ・2017 年度は 2 月 8 に移り、慶應とずらしたが、上智、中央の理工とバッティング
- ⑧ 薬： 志願指数 104 (2017 年度 95、2016 年度 79)
- ・2016 年度は首都圏私立薬学系等で初めて数Ⅲまで出題範囲にした結果、負担増で志望者減が続き、年々合否レベルも下がっていた。今年度は下げ止まり。

ICU

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
教養	合計	87	92	72	83	84	71	106	112	71

- ① 2 年連続の指数 83 で下落。昨年度は倍率を維持したが、上位層も減るが、B 判定値はむしろ上がり、少数精鋭型に移りつつあるか。
- ② 2015 年度から入試変更
- ・B 方式： TOEFL、IELTS のスコアを採用 (募集人員 10 名)
 - ・A、B 方式共に新科目「総合教養」の設置
(15 分のミニレクチャー + 論文を読む → 設問 40～45 問)
- ③ 日曜日に迫いやられて入試日を毎年変更、今年是最早日程：
- ・2015 年度 2 月 7 日 → 2016 年度 2 月 6 日 → 2017 年度 2 月 4 日 → 2018 年度 2 月 3 日 (今年度は上智・TEAP とバッティング)

明治大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	98	123	68	97	99	68	115	103	68
法	合計	104	140	70	98	90	70	114	114	70
政治経済	合計	98	134	68	102	93	68	124	115	68
経営	合計	104	158	68	119	115	68	99	82	69
商	合計	100	155	69	106	97	69	118	112	69
国際日本	合計	91	159	70	104	86	69	105	94	70
情報コミ	合計	100	160	68	105	86	68	117	111	67
総合数理	合計	109	170	61	95	70	60	93	95	60
理工	合計	103	111	62	96	87	61	103	95	61
農	合計	94	125	62	87	86	62	103	97	62

- ① 学校全体の指数は 100 で、前年並み。上位層は厚い。
- ② 1030 名位の定員増。その増加分が全体指数にまだ影響していない。
- ③ 文： 2016 年度に上昇したが、今年は昨年が続いて指数 98 で微減が続く。
 - ・文学部心理社会学科（哲学専攻）を新設。
- ④ 経営： 全体指数 104 で志望者増。
 - ・C ライン以上が増加し、難化予測。
 - ・ただし全学部は大きく減（78）と英語利用は減（94）。
 - ・入試変更の影響もあり、2015 年、2016 年と志望者減だったが、2017 年度は反動で志望者増（2017 年度指数 119）。3 科目型は合格者の絞り込みも相まって、倍率 4.2 から 6.6 にアップした。
 - ・2017 年度から英語型方式 英語外部試験利用、40 名募集
 - ・英語方式導入に伴い、3 科目方は定員減。それにもかかわらず指数 202 と大幅志願者増。
 - ・英語外部試験利用は定員 40 に対して 94 の志望者。2017 年度の実質倍率も 2.6 倍と低い水準（3 科目型は 6.6、全学部は 5.8）。
- ⑤ 法： 全体指数 104（個別は 99、全学部は 110）
 - ・C ライン以上が増加、難化予測。上智の志望者が流入している可能性あり。
 - ・2015 年度より合格率 40% 台の偏差値が上昇。
- ⑥ 国際日本： 指数 91。
 - ・大きく減ったのは C ライン以下だが、C ライン以上もやや増加。上位者指数は 159 と高い数値で難化の傾向が見られる。
- ⑦ 全学部入試：
 - ・2 月 5 日に法政 T 日程とバッティングする。
 - ・明治・政経での実質倍率が 2017 年度に急上昇し（4.7 倍→8.7 倍）、法政・経済を抜か

す。一方、明治理工は 2015 年度に倍率を下げ、法政・理工を下回ったまま。

2017 年度全学部倍率： 明治・政経 8.7 倍 vs 法政・経済 5.4 倍

明治・理工 3.6 倍 vs 法政・理工 6.5 倍

青山学院大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	95	116	66	102	85	66	110	108	67
総合文化	合計	101	145	69	97	91	69	128	118	69
法	合計	96	135	66	109	85	66	116	114	66
国際政経	合計	94	139	69	107	91	69	106	91	69
経済	合計	98	151	65	107	92	65	125	110	65
経営	合計	102	147	68	112	100	66	118	113	66
社会情報	合計	100	132	64	101	68	64	120	99	64
教育人間	合計	94	119	68	93	84	68	109	95	68
地球社会	合計	112	155	66	124	68	66	109	121	66
理工	合計	93	104	59	99	109	58	111	102	58

- ① 大学全体は指数は 97 でやや減。しかし上位者指数を軒並み伸ばし、厳しくなるか。
- ② 昨年合格者の絞り込みが厳しかった前年度比 85%とダントツに厳しかった。
- ③ 社会情報： 指数 100。個別 A 方式は 113、その他は志望者減。全体としては C 以上が増えており、難化予測。
- ④ 地球社会共生： 新設 3 年目。志望者指数 112 と続伸（前年度指数 124）
 - ・ C ライン以上が大きく増え、かなりの難化予測。
 - ・ 2017 年度の実質倍率は 11.5 倍（2016 年度の 3.7 倍から大幅アップ）
 - ・ 2017 年度は同学部内の併願をする受験生も多かったが合格率はわずか 3.7%。
青山・文の合格率も 9%と厳しい。
 - ・ A 方式は 2016 年指数 43 と大きく減らし、2017 年度は反動で指数 143 と回復。2018 年度は 110 と順調。
 - ・ 個別 B が指数 142、全学部が 134 と増加。
 - ・ センター利用は 96（センター利用の 2017 年度実質倍率は 15.6 倍に跳ね上がる。高倍率を嫌って志望者伸びなかったが、大きく減らしたわけではない）。
 - ・ 学習院・国際社会とバッテリー（2 月 11 日）
- ⑤ 経営の B 判定値が 2 ポイント上がる。

立教大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	100	138	67	104	103	66	103	100	66
現代心理	合計	114	176	67	102	79	67	102	94	67
法	合計	101	164	69	105	100	68	110	102	69
経済	合計	101	162	69	106	95	68	111	107	69
経営	合計	98	167	70	112	91	70	99	89	70
社会	合計	105	156	70	107	85	69	100	88	70
観光	合計	107	186	67	104	85	67	99	104	67
コミュ福祉	合計	115	156	64	99	109	64	103	98	64
異文化コミ	合計	92	174	70	93	68	72	99	115	72
理	合計	98	100	62	90	81	62	94	82	62

① 大学全体の指数は 102。

- ・2017 年度入試で合格者を前年の 88% に絞り込んだが、今年度も微増。

② 現代心理： 指数 119、C 以上が増加し、難化。

③ 異文化コ： 指数 92 で志望者減

- ・2017 年度は実質倍率が 14 倍に。センター3 教科型では 18.7 倍。グローバル方式も 2016 年度の 4.5 から 14.5 倍にアップした。
- ・グローバル方式の基準が B1 から B2 にハードルが上がる。この方式は指数 81 と特に大きく減少。
- ・志望者の減少は合格ライン以下で、C ライン以上の分布は昨年と一致。
- ・2010 年から立教の中でレベル上昇が顕著（合格者平均の偏差値は 70）

④ 理： 学部全体で指数 96。昨年の 90 から続落。

中央大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	105	133	64	198	104	64	129	120	65
法	合計	91	113	70	105	104	70	124	128	71
総合政策	合計	102	192	68	109	66	68	113	89	68
経済	合計	94	145	65	107	98	65	132	108	66
商	合計	96	141	65	106	98	65	136	113	65
理工	合計	97	109	60	94	86	59	107	103	59

- ① 全体指数は 97 で減。
- ・文学部（105）、総合政策（102）以外は 100 を下回る。
 - ・2015 年度は多くの学部で志望者減少。2016 年度は大幅な回復。2017 年度は水準を維持。
- ② 法： 志望者 91 と増。C 以上には大きな変化なく、前年並みの入試か。
- ・2016 年は指数 124、2017 年度は指数 105。中央法学部の人気&レベル回復が落ち着く。
 - ・英語偏差値 67 を目安
- ③ 総合政策の上位者指数 192 は前年度までの反動。

法政大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	102	113	65	115	111	65	101	86	65
法	合計	101	122	66	111	102	66	106	101	67
経済	合計	101	140	65	126	106	65	113	98	65
経営	合計	101	131	65	122	102	65	107	98	65
社会	合計	107	133	64	104	107	64	108	94	64
現代福祉	合計	92	100	63	106	117	63	112	84	63
国際文化	合計	90	183	67	119	76	67	94	123	67
人間環境	合計	116	143	64	114	94	64	118	120	64
情報科学	合計	113	153	58	112	89	56	108	90	57
キャリア	合計	99	112	63	104	94	63	114	124	63
GIS	合計	105	241	70	99	70	70	120	119	70
デザイン	合計	102	105	59	110	100	58	105	99	58
理工	合計	107	113	58	105	95	57	95	98	57
スポーツ	合計	99	111	64	102	80	64	109	76	64
生命科学	合計	96	91	59	108	115	58	112	86	58

- ① 大学全体指数は 102 でやや増。
- ・3 年連続志望者数を伸ばす。
 - ・2016 年度は定員充足率の厳格化の逆を行き、前年度比 119% の合格者を出し合格絞り込み増やしたが、2017 年度はその反動もあり、合格者の前年度比指数は 91 と厳しい絞り込みが見られた。
- ② 2017 年度に人気の出た法（101）、文（102）は高止まり、国際文化（90）は志望減。
- ・2016 年度模試の指数は法（111）、文（115）、国際文化（119）などの文系の伸びは著しい。
- ③ 法、： 指数 101 で前年並みも C ライン以上が大きく増加し、難化予測。

- ・法政・法の他方式、明治・法、学習院・法の併願合格率は 12～15%。日大・法は 41%。
→ MARCH 以外の併願も要件等
- ④ 国際文化、文、現代福祉、デザイン工でセンター新規実施の募集単位あり。
・上位者指数 183 は前年度の反動。
- ⑤ 経済（多摩 C）： 志望者指数 101 と前年並み。昨年度は指数 126 と大幅増で、C 以上が微増し、やや軟化。
- ⑥ 経営（市ヶ谷 C）： 指数 101 で前年並みも C ライン以上が大きく増加で難化。
・2017 年度は 122 と大幅増。C 以下の増加が目立ち、難易度の変化なし。
・MARCH 系列の経営、商の併願合格率は 8～15% と厳しい。
- ⑦ GIS： 指数 105 で増加。
・倍率上昇： 2015 年度 3.5 倍 → 2016 年度 5.0 → 2017 年度 7.7 倍
・T 日程のほうが個別より難易度高い。偏差値 70 前後が目安に。
・一般入試は、上智・外国語／英語とのバッティング

学習院大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	94	129	65	109	88	65	105	85	65
法	合計	97	159	66	114	79	65	118	101	66
経済	合計	96	154	64	117	80	64	130	111	64
国際社会	合計	92	121	66	105	106	64	新設	新設	64
理	合計	88	98	58	99	90	58	100	96	58

- ① 大学全体の志望者指数は 94。2 年間の人気上昇から志望者減へ。
・新設した国際社会の人気に押され 2016 年度は指数 128、2017 年度は 110。2015 年度 7900 人から 2017 年度 11000 人と大幅アップしていた。
- ② 入試変更：
 - ・コア試験（従来の入試試験） + プラス試験（他学部の試験日に設定）ただし、プラス試験は他学部の試験科目で受験する。
例）文学部： 数学、英語、理科の 3 科目（理学部の科目で勝負）
→ 志望者が増えるわけがない。模試の志望者 8 名／定員 5 名
 - ・国際社会は昨年度実施した B 方式をプラス方式にして、英語外部試験の活用を行う。

学部別 コア試験・プラス試験の志望状況

	コアのみ	コア&プラス	プラスのみ
文	99.6%	0.1%	0.3%
法	92.6%	4.3%	3.2%
経済	93.7%	3.1%	3.2%
国際社会科	90.8%	3.3%	6.0%
理	85.7%	6.6%	7.7%

- ③ 国際社会： 指数 92。勢いが止まり、揺り戻し（2017 年度は指数 105 で続伸）
- ・ 2017 年度から英語外部試験利用型の B 方式を実施。2018 年度はプラス方式に変更。
 - ・ 倍率： 2016 年度 4.1 倍 → 2017 年度 6.6 倍
 - ・ プラス方式の指数 120（前年度 B 方式比）
 - ・ 併願先： 明治・国際日本、学習院・経済、法政・国際文化
MARCH の上位学部、留学を課す大学との併願が多い。
 - ・ 受験日は青山・地球社会とバッティング
- ④ 昨年度好調だった法、文も志望者減。しかし上位者指数は伸びており、むしろボーダーラインが厳しくなるか。
- ・ 法： 指数 97（前年度 114）、文： 指数 94（前年度 109）
 - ・ 法の倍率： 2015 年度 2.7 倍 → 2016 年度 4.6 倍 → 2017 年度 5.2 倍
- ⑤ 経済： 指数 96（前年度 117）。経営のコアは 76 の大幅減。
- ・ ただし C ライン以上の志望者が増え難化予測。
- ⑥ 理： 指数 88 と志望者減。プラスし方式が文系学部よりも多く志望（理系志望者全体の 14%）

國學院大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	107	150	62	97	77	62	114	108	61
神道文化	合計	131	158	58	85	92	53	94	70	53
法	合計	102	143	59	97	87	58	117	114	58
経済	合計	105	157	60	105	88	58	117	101	58
人間開発	合計	98	117	62	95	72	63	101	80	62

*神道文化 A を除く。

- ① 大学全体： 指数 105。
- ② 文： 指数 107。C ライン以上が増加し、難化。
- ・ 2017 年度入試では倍率が上昇
- ③ 法（102）、経済（105）はやや増。

成蹊大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	96	120	62	106	112	62	99	83	62
法	合計	92	111	63	115	121	63	110	88	63
経済	合計	93	108	64	115	98	64	112	95	64
理工	合計	99	108	55	95	121	56	94	89	56

- ① 全体指数 94。全ての学部で 100 を割る。
- ② 大学全体で 40 名の定員増。
- ③ 法： 指数 92。C ライン以上の志望者が大きく減り、ボーダーラインはやや競争緩和。

成城大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文芸	合計	99	150	51	98	75	59	108	93	59
法	合計	107	178	61	92	91	61	104	104	60
経済	合計	101	140	61	98	97	61	118	101	60
社会イノベ	合計	101	137	60	93	84	60	112	94	60

- ① 2017 年度は総じて志望者減だったが、2018 年度は指数 101 で前年度水準を維持。
- ② 法： 指数 107。C ライン以上が増加。難化。上位者指数 178。

明治学院大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	115	186	60	97	68	60	114	110	60
心理	合計	100	123	63	102	89	62	108	105	62
法	合計	115	156	60	107	85	60	102	94	59
経済	合計	107	161	59	110	80	59	110	110	60
社会	合計	117	146	60	97	90	59	98	93	59
国際	合計	96	131	64	103	83	63	104	93	63

- ① 大学全体： 指数 108 で 4 年連続の続伸。
- ・ 2015 年度 110、 2016 年度 106、 2017 年度 103
 - ・ 2015 年度から全学部方式、地方入試の増設
- ② 法学部グローバル法学科を新設。半年留学を義務づける。
- ・ 併願： 明治、法政、明治学院、立教・国際ビジネス、青山学院
- ③ 法（115）、文、（115）、社会（117）、経済（107）で志望者増。
- ・ 文、法ともに C ライン以上が増加し、難化。

武蔵大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
人文	合計	90	126	63	105	85	62	106	80	61
経済	合計	97	184	64	111	75	63	118	92	63
社会	合計	101	156	63	100	88	63	108	68	62

- ① 大学全体： 指数 97。
- ② 社会は 101 と前年並み。
- ③ 人文は指数 90。ただし C ライン以上は大きく変わらず前年並みか。
- ④ 経済は指数 97 も、上位者指数は 184。B 判定ラインも 1 ポイント上がる。

日本大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
法	合計	98	125	60	108	98	60	108	116	59
経済	合計	90	137	59	114	83	59	107	108	59
商	合計	93	141	59	112	92	59	103	105	59
国際関係	合計	98	119	56	116	103	56	92	97	56
文理	合計	96	117	57	109	95	58	97	96	57
危機管理	合計	87	170	56	81	62	56	新設	新設	56
工	合計	85	89	50	111	112	49	86	76	48
生産工	合計	96	103	49	105	123	48	93	103	48
理工	合計	102	112	55	96	106	55	101	111	55
医	合計	97	75	65	89	94	67	107	81	67
歯	合計	98	87	55	112	148	53	86	86	53
松戸歯	合計	91	122	52	107	96	49	84	108	50
薬	合計	98	113	57	99	105	57	90	87	57
スポーツ	合計	90	132	54	98	69	54	新設	新設	54
生物資源	合計	81	108	57	91	115	56	102	84	56
芸術	合計	94	172	54	114	80	54	90	89	53

* 法律第二部を除く。

- ① 大学全体： 指数 94、軒並み減少。
 - ・100 を超えているのは法二（112）、理工（102）のみ。
- ② 大学全体で 472 名の定員増。
- ③ 危機管理（設置 3 年目）： 指数 87。昨年度の 81 に続き大きく続落。C ライン付近、それ以下の層が減少。上位層は変わらないがボーダーラインは易化。
- ④ 生産資源：
 - ・センター廃止で個別方式の募集が増えた。C ライン以上の志望者が増加し、難化予測。

東洋大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	93	124	59	111	86	59	108	103	59
法	合計	97	127	57	106	108	57	115	89	57
経済	合計	103	125	57	114	106	57	115	114	57
経営	合計	100	131	57	117	115	56	102	104	56
社会	合計	107	130	58	104	94	59	101	100	58
国際地域	合計	---	---	---	改組			104	105	59
国際観光	合計	95	129	60	167	138	59	---	---	---
国際	合計	107	129	59	235	186	59	---	---	---
総合情報	合計	104	119	51	96	81	52	102	103	52
情報連携	合計	193	211	52	新設	新設	52	---	---	---
理工	合計	100	118	50	98	86	50	105	100	49
生命科学	合計	85	72	54	91	92	54	108	101	54
食環境科	合計	97	133	54	94	90	54	90	77	53
ライフデザ	合計	101	110	53	89	82	53	99	92	53

*イブニングコースは除く

- ① 大学全体： 指数 100 で昨年の高水準を維持（前年度 127%）。
- ② 1 つの試験でいくつも合否判定が受けられる同日併願
- ③ 情報連携（2017 年度新設）：
 - ・認知度が広がり指数 193。上位者指数も 211 と大躍進。C ライン以上が大きく増え、難化必至。
 - ・情報連携、総合情報は相互の併願系が強い。他大では専修大、工学院大、芝浦工大。
 - ・2017 年度併願： 日本・工が合格率 89%
- ④ 生命科学： 指数 85 で減

駒沢大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	100	143	58	104	82	58	114	114	58
仏教	合計	71	99	48	107	97	46	136	130	46
法	合計	91	135	56	107	88	55	121	114	55
経済	合計	90	127	56	110	93	55	120	116	55
経営	合計	92	142	57	114	95	55	106	101	55
グローバル	合計	93	119	58	98	92	56	115	93	56
医療健康	合計	81	88	55	117	96	55	100	106	55

* 法 B は除く

- ① 全体的に志望者減。指数 94。2 年連続の続伸の反動あり。一昨年度より続伸。
- ② 法 B が指数 137 と増。
- ③ グローバル・メディア： 2017 年度の指数 98 に続き、今年度は 93。
・ 2015 年度は志望者数大幅増がここ数年で人気落ち着き、やや下がり基調。
- ④ 医療健康： 指数 81。C ライン前後で志望者減。

専修大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	99	146	57	109	89	57	113	102	57
法	合計	100	128	57	111	107	56	110	92	56
経済	合計	98	115	57	116	109	57	119	115	57
経営	合計	95	141	56	119	96	56	108	97	56
商	合計	95	109	55	105	95	56	110	102	56
ネットワーク	合計	101	126	55	103	91	55	131	106	55
人間科学	合計	99	167	60	103	78	60	107	96	59

* 二部を除く

- ① 大学全体： 指数 97 総じて志望者数。2017 年度 111、2016 年度 112 の反動。
- ② スカラシップ入試の定員を 60 名→100 名以内
・ 一般合格ラインと 3 科目で 30 点の差がつけば圏内。

獨協大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
外国語	合計	103	126	62	95	91	62	115	92	62
法	合計	115	123	56	108	110	55	109	84	55
経済	合計	117	127	56	107	108	56	108	92	56
国際教養	合計	106	129	63	98	81	63	117	104	63

大東文化大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	129	176	49	85	77	49	101	101	49
外国語	合計	143	168	47	86	81	45	89	80	45
法	合計	113	189	49	94	88	47	110	113	47
経済	合計	117	165	49	100	87	47	86	92	47
経営	合計	109	144	50	101	101	48	88	84	48
社会	合計	474	1757	48	---	---	---	---	---	---
国際関係	合計	174	151	49	89	92	47	92	77	47
環境創造	合計	改組			96	67	46	79	98	46
スポーツ	合計	113	124	51	86	85	50	95	89	50

- ① 2017 年度は 91% と総じて志望者を落としていたが、2018 年度は 126% と大幅に上昇。全ての学部で志望者が増加。
- ② カレシ（看護学科、歴史文化学科、社会学科）の新設
- ③ 文（129）、外国語（143）、法（113）、経済（117）： C ライン以上の志望者増。
- ④ 経済（100）、経営（101）が前年並みも、他学部は軒並み志望者数を減らす。
- ⑤ 新設の社会は改組前の同系募集単位と比較して指数 474、上位者は 1757 と異常な数値。

東海大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	19	159	52	94	97	51	105	101	50
文化社会	合計	120	160	49	---	---	---	---	---	---
法	合計	102	145	50	96	118	49	92	79	49
政治経済	合計	103	148	51	100	125	52	99	80	51
経営	合計	112	136	48	88	83	49	105	112	49
観光	合計	100	128	53	112	129	52	91	89	51
国際文化	合計	116	106	45	107	122	45	83	83	45
教養	合計	100	134	48	93	79	48	94	103	47
理	合計	99	119	50	82	103	49	90	80	48
工	合計	100	108	49	89	83	47	92	98	46
情報理工	合計	100	106	48	99	114	46	98	75	46
情報通信	合計	107	120	48	88	99	47	100	96	46
基礎工	合計	102	91	46	88	81	45	84	127	44
医	合計	116	100	64	83	86	65	130	137	65
健康科学	合計	改組			83	106	51	138	107	52
体育	合計	86	124	54	89	95	54	97	74	54
健康	合計	212	329	55	---	---	---	---	---	---
農	合計	85	129	52	75	101	52	89	82	52
海洋	合計	87	112	51	97	93	50	94	104	50
生物	合計	96	123	53	86	123	51	116	99	51

- ① 大学全体： 指数 102 で微増。昨年度は総じて志望者減。
- ② 学部改組： 文学部の学科が文学部と文化社会学部に再編
看護学部が健康科学部から医学部に移行
健康科学部社会福祉学科が健康マネジメント学科に変更
- ③ 文（119）、文化社会（120）、医・看護（116）、健康（212）と改組学部は全て大きく増加。

亜細亜大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
法	合計	85	109	49	124	136	50	103	104	50
経済	合計	77	106	49	115	106	50	116	120	50
経営	合計	86	123	50	106	109	50	111	104	50
国際関係	合計	84	107	53	108	93	53	112	89	53
都市創造	合計	115	163	49	106	100	50	新設	新設	50

- ① 大学全体： 前年度までの反動で指数 84 と大きく減少。
- ② 法、(85) 経済 (77)、経営 (86)、国際関係 (84) は志望減
・ C ライン前後の志望者減で易化
- ③ 都市創造 (2016 年新設)：
・ 2017 年の指数 106 に続き、今年度は 115 と続伸。
・ 実質倍率： 2016 年度 1.3 倍 → 2017 年度 2.2 倍

帝京大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	97	141	53	99	76	54	86	44	53
外国語	合計	91	111	49	109	117	50	81	47	50
法	合計	106	124	48	117	120	49	74	43	49
経済	合計	93	121	47	111	108	48	87	49	48
教育	合計	84	105	56	97	76	56	88	38	56
理工	合計	90	113	49	106	120	48	90	65	48
医	合計	99	114	64	106	110	65	97	79	65
薬	合計	106	106	55	99	95	56	94	108	56
医療技術	合計	98	110	54	93	100	51	95	69	54

* 福岡医療を除く。

- ① 大学全体： 指数 96
- ② 学部新設： 法学部政治学科 (100 名)、政治経済学部国際経済学科 (200 名)
・ 政治学科は 96 名の志望、国際経済は 73 名の志望と低調
- ③ 外国語： 2017 年度入学制から留学が必修に。昨年度は指数 109 だったが今年度は 91 と減。

順天堂大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
国際教養	合計	99	106	58	123	109	57	117	107	57
医	合計	118	135	67	97	96	69	102	136	71
スポーツ	合計	87	128	58	110	81	58	100	80	58
医療看護	合計	89	105	59	106	134	58	108	123	58
保健看護	合計	98	116	55	103	110	56	110	145	56

- ① 全体的に低調。
- ② 2014 年に設置された国際教養は志望者指数の上昇は高止まり。上位者はやや微増が続き、B 判定ラインも 1 ポイント上がる。
- ③ 医学部は B 判定ラインが下がる。

文教大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	89	125	56	109	83	56	113	98	55
経営	合計	82	108	51	115	99	51	126	146	50
教育	合計	91	131	63	97	67	64	117	87	64
国際	合計	94	112	54	94	80	53	96	100	52
人間科学	合計	86	108	55	107	82	55	101	90	55
情報	合計	80	97	50	135	140	49	94	96	49
健康栄養	合計	89	133	55	92	51	55	109	97	55

- ① 文： 2017 年度に外国語学科が新設。今年度の指数 89 と下落。前年度指数 109。
- ② 情報： 2017 年度に倍率を 3.6 倍（前年度 1.6 倍）と上げたが今年度は指数 80。

津田塾大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
学芸	合計	94	104	61	101	104	61	91	80	61
総合政策	合計	113	140	64	新設	新設	64			

- ① 指数 98。前年度 125 から微減。
 - ・総合政策の勢いに支えられるが、学芸は 94 と下げる。
- ② 総合政策（2017 年度新設、千駄ヶ谷キャンパス）
 - ・指数 113。C ライン以上が増加し、難化。
 - ・昨年度も募集 80 名に対し 465 と人気だったが、今年も人気続伸。

日本女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	94	100	62	102	87	62	106	96	61
人間社会	合計	106	109	60	101	95	60	113	100	60
理	合計	103	112	58	96	106	58	101	91	58
家政	合計	96	126	63	97	83	64	101	90	64

- ① 大学全体 99%と大きな変動なし
- ② 入学定員が 137 名増加。

東京女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
現代教養	合計	101	127	61	103	87	61	96	90	60

- ① 全体では指数 101 で前年度水準堅持。
- ② 学部新設： 現代教養学部国際英語学科（155 名）
現代教養学部国際社会学科にコミュニティ構想専攻を設置（50 名）
- ③ 学科改組： 現代教養学部人間科学科が心理コミュニケーション学科に改組
- ④ 新設の現代教養学部国際／コミュは 152、国際英語は 346 と人気（改組前の学科比）。

大妻女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	100	130	55	111	110	53	96	80	53
比較文化	合計	103	148	50	83	95	49	141	110	49
社会情報	合計	83	138	50	194	210	48	126	110	48
人間関係	合計	112	136	51	101	104	49	100	107	49
家政	合計	95	143	55	95	83	55	87	53	55

- ① 学科改組： 人間福祉学科の専攻を廃止する。
- ② 新設予定だった健康美学部健康美学科は設置認可申請を取り下げる。
- ③ 比較文化： 指数 103。2016 年度はキャンパス移転の影響で増加、2017 年度は反動で 83 と下げる。
- ④ 社会情報： 指数 83。2017 年度のキャンパス移転で指数 194 の反動。
・ 2016 年度よりも C ライン前後が下がり、易化。ただし、2016 年度よりは全ての層がかなり厚い。

共立女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文芸	合計	105	150	53	112	139	52	101	91	51
国際	合計	110	98	53	116	128	53	103	100	52
看護	合計	97	180	57	120	255	57	139	189	57
家政	合計	95	144	55	106	84	55	114	89	54

- ① 文芸 (105)、国際 (110) は上昇。
- ② 看護は 97 とやや下げる。2017 年度指数は 120。

実践女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
文	合計	98	129	50	117	118	49	90	81	49
人間社会	合計	115	146	52	111	122	51	94	94	50
生活科学	合計	97	106	54	108	107	54	112	94	54

- ① 人間社会は 115 で続伸。C ラインやや以下の層が増加。チャレンジ層はやや厳しくなる。
- ② 2016 年倍率が下がり、実質倍率 1 倍台だったが、2017 年度は全ての学部で 2 倍を回復。

昭和女子大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
グローバル	合計	106	108	55	115	117	54	99	72	54
人間社会	合計	102	125	57	110	83	56	104	108	55
国際	合計	96	105	57	125	117	55			
人間文化	合計	110	189	54	97	79	53	96	86	54
生活科学	合計	106	130	57	111	87	57	108	79	56

- ① 新設 2 年目の国債は志望者が伸びていないが、2017 年度の入試結果もあり、B 判定ラインが 2 ポイント上昇。

工学院大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
情報	合計	92	118	52	106	131	52	96	99	51
工	合計	75	92	52	104	117	51	104	106	51
建築	合計	89	114	54	107	146	52	114	111	52
先進工	合計	88	81	54	92	101	52	97	142	52

- ① 大学全体： 指数 86 と大幅減。
- ② 工： 指数 75 で下げ頭。ただし C ライン以下が減少し、C ライン以上はほぼ前年と同じ分布。前年並みの難易度が維持できるか。
- ③ 人気だった情報、建築も 100 を割り切る。
- ・ 建築の倍率： 2016 年度 8.5 倍 → 2017 年度 14.9 倍

東京電機大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
工	合計	86	83	54	108	105	53	92	80	53
理工	合計	106	102	53	84	71	52	98	103	52
情報環境	合計				改組			111	85	51
未来科学	合計	98	99	54	101	112	53	114	87	53
システム	合計	95	144	54	新設	新設	52			

*工学部 2 部を除く。

- ① 学系改組： 理工学部内の学系改組
- ② 工： 指数 86. C ライン以上が志望者減で易化。
 - ・併願： 2017 年度は千葉工大で 40%、東洋大・理工で 50%の合格率
- ③ システム（2017 年度新設）：
 - ・指数 95。やや下げるも 175 名の募集に対して 1093 名の志望者が残っている。

芝浦工業大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
工	合計	108	109	56	93	86	56	104	98	56
システム理工	合計	117	110	56	82	73	56	106	98	57
デザイン	合計	124	121	56	改組	改組	56	102	100	56
建築	合計	102	101	57	104	---	56			

- ① 理系の中で大学全体指数 109 と元気。
- ② デザイン： 指数 124
- ③ 建築は 102。昨年度学部改組してやや難化。今年は前年度並み。
- ④ 工（108）、システム理工（117）も志望者増。

東京都市大

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
都市生活	合計	110	151	51	105	106	52	91	72	51
人間科学	合計	99	119	51	97	63	53	85	92	52
メディア	合計	110	109	51	107	131	50	82	81	51
工	合計	110	113	54	93	111	54	93	99	53
知識工	合計	137	149	54	87	88	55	94	109	55
環境	合計	115	145	50	107	107	49	89	107	50

① 知識工： 指数 137

- ・増加は C ライン以下で難易度の変動なし。

千葉工業大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
社会システム	合計	128	140	46	82	94	44	140	120	44
情報科学	合計	96	124	53	108	139	51	96	110	51
工	合計	92	97	51	99	123	49	140	---	48
創造工	合計	93	100	51	108	129	48	133	---	47
先進工	合計	88	87	52	96	145	50	72	---	49

① 大学全体： 指数 94

- ・2015、2016 年度は大きく伸び、昨年は落ち着いていた。
- ・ここ 3 年間での B 判定値上昇が顕著。

② 工： 指数 92

- ・2017 年度の併願先は学内併願が多く、合格率は 50%を超える。

③ 創造工・建築は指数 86 で爆発的な人気落ち着く。

- ・倍率 2015 年度 5.0 倍 → 2016 年度 14.1 倍 → 2017 年度 30.3 倍

東京農業大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
国際食糧	合計	89	108	56	106	93	55	101	92	55
地域環境	合計	85	110	55	114	114	55	112	110	55
農	合計	105	105	57	87	89	56	95	80	56
生物産業	合計	76	69	53	85	109	52	95	82	52
応用生物	合計	76	83	60	87	115	60	93	77	60
生命科学	合計	114	156	58	165	191	57			

① 学部新設： 農学部生物資源開発、農学部デザイン農学

② 生物産業、応用生物： とともに指数 76 と大幅減少。

・全ての偏差値帯で志望者減。易化必至。

③ 新設の農・生物資源開発は志望者 299 名（定員 72 名）

日本医科大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
医	合計	122	112	66	85	90	67	106	101	68

① 6 年間の授業料を 750 万円下げる（125 万／1 年）。

② 志望者は増。A ライン以上は志望減、B～C ラインが上昇。B 判定値は 66 と 1 ポイント下がる。来年度以降、値下げが影響して上昇していく可能性もあり。

東邦大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
理	合計	96	120	56	84	84	56	99	89	56
医	合計	97	86	65	89	85	67	114	107	67
薬	合計	112	137	58	94	89	58	107	105	58
看護	合計	99	81	56	88	105	56	104	123	56
健康科学	合計	114	119	56	新設	新設	56			

- ① 医学部の志望者減、B 判定値ライン降下が見られる。
 ② 設置 2 年目の健康科学は志望者指数を伸ばす。

北里大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
理	合計	92	113	59	96	115	59	98	79	59
医	合計	107	95	64	86	80	65	111	112	65
薬	合計	94	115	60	97	85	60	102	96	60
医療衛生	合計	96	104	55	97	102	54	103	108	54
看護	合計	94	84	60	99	98	59	110	131	59
獣医	合計	88	84	62	95	92	61	108	87	59
海洋生命	合計	96	110	54	92	106	53	107	107	52

昭和大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
医	合計	88	78	66	107	104	68	107	97	68
歯	合計	104	102	57	90	101	56	111	105	56
薬	合計	92	103	59	103	107	58	90	95	58
保健医療	合計	100	133	54	88	101	54	100	98	54

明治薬科大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
薬	合計	96	109	58	88	102	58	111	114	58

東京薬科大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
薬	合計	89	105	60	99	102	58	100	98	58
生命科学	合計	88	77	57	91	91	57	91	73	57

星薬科大学

過去 3 年間のベネッセ駿台マーク模試の動向

学部・学科		2018 年度受験生 (2017 年模試)			2017 年度受験生 (2016 年模試)			2016 年度受験生 (2015 年模試)		
		全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定	全体	上位	B 判定
薬	合計	92	118	60	95	100	60	104	99	60

G 入試日程 : ポイントとなる入試日

<全体>

- ① 全体として大きく影響を及ぼす入試日の変更はない。
- ② 学習院大学のコア、プラス入試の複数日程化
- ③ 英語外部試験の導入などによる併願の可能性拡大

<系統別>

① 法学

- 2月5日: 上智・国際法、明治・全、法政・全
- 2月6日: 立教・全、明学・政治、学習院・法(プラス)、
津田塾・総合政策(2月9日から移動)
- 2月7日: 上智、青山・全、成城、明治学院・グローバル法(新設)
- 2月8日: 立教、法政・国際政治
- 2月12日: 中央が法と国際法(お金を払えば両学部とも受験可能)

② 経済・経営・商学

- 2月2日: 東京理科大学・経済、ビジエコ
- 2月6日: 立教・全、学習院・経済(コア)、明学、成城
- 2月7日: 上智、青山・全、法政、明学
→ 6日、7日は経済系統には外せない
- 2月11日: 明治、中央、学習院・経済(プラス)
- 2月12日: 立教、法政
- 2月13日: 慶應、立教、成蹊
- 2月15日: 中央、青学
- 2月18日: 東京理科・ビジエコ／グローバル(2月11日から移動)

③ 国際: 全体的に早い時期に入試日が乱立している

- 2月3日: ICU(2月4日から移動)
→ 上智 TEAP とのバッティングもさほど影響はない
- 2月4日: 上智・外国語／ド、ポ、東京女子、明治学院
- 2月5日: 明治・全、法政・全、津田塾
- 2月6日: 上智・総合グロ、立教・全
- 2月7日: 上智・外／英、青山・全、法政 GIS、津田塾・学芸／国際関係
→ 国際系の1つのキーになる日程
- 2月8日: 立教・異文化 → 大きなバッティングがなく受けやすい
- 2月9日: 上智・外／物など、中央・全、明治・国際日本
- 2月10日: 中央・文、青山・総合文化政策 B、学習院・国際<プラス>(新設)

- 2 月 11 日： 学習院・国際社会<コア>、青山・地球社会
→ 2 月 10 日、11 日は MARCH の中でおさえない日程。
2 月 11 日は受験生の分散傾向も、両者とも人気学部

④ 数学、物理、化学

- 2 月 3 日： 東京理科・理工、数学（2 月 5 日&6 日から移動）、上智 TEAP、北里・理
2 月 5 日： 東京理科・理、応用系、理工、先進化（2 月 4 日&13 日から移動）、
明治・全、法政・全
2 月 7 日： 明治・理工、青山・全、学習院・理<コア>
2 月 8 日： 東京理科・理、数学（2 月 12 日から移動）、上智・理工、中央
→ 2017 年度から東京理科大が慶應とのバッティングを外して移動、上智との
バッティング
2 月 9 日： 学習院・理<プラス>
2 月 12 日： 慶応・理工

⑤ 建築・土木・環境

- 2 月 1 日、2 月 3 日： 芝浦工大学内での入試日のスワップ
2 月 6 日： 東京理科・建築、東京理科・土木工（2 月 4 日から移動）・・・併願可
2 月 9 日： 東京理科・工／建築（2 月 8 日から移動）

⑥ 薬学

- 1 月 30 日： 東京薬科、帝京（1 月 31 日から移動）
2 月 1 日： 北里、明治薬科、日本、帝京
2 月 3 日： 星薬、東邦
2 月 5 日： 明治薬科、日本
→ 武蔵野は 2 月 6 日に、東京理科は 2 月 7 日に移動
2 月 6 日； 武蔵野（2 月 5 日から移動）
2 月 7 日： 東京理科・薬、生命創薬（2 月 5 日から移動、2 学科とも併願可能）

⑦ 医学

あらゆる大学が変更したが、毎年ながら談合したかのように大きなバッティングがない

⑧ その他

- ・今年度のセンターは早い。1 番遅い年に比べると 1 週間早い。
→ 1 週間早くセンター準備を計算する。
センター後は私大、2 次に時間をかけて集中できる。
- ・慶応は医以外は国公立前期の前に合格発表
- ・関西は 2 月 8 日までには受験が大方終了。全学部入試が多い。